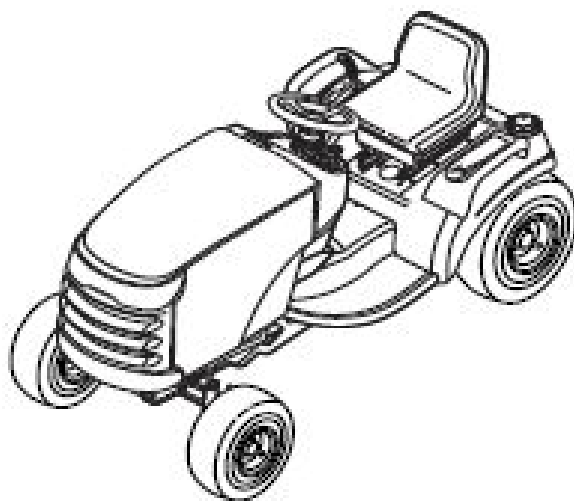


 **Simplicity**® **SNAPPER**®

Broadmoor/300/1600/2600 Series

取扱説明書



ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください



ブリッグス・アンド・ストラットン ジャパン株式会社

目次

1. 安全の手引き	3
2. 使用上の注意、警告事項	6
3. 識別番号	11
4. 警告ラベル	12
5. 各部の名称と機能	14
5-1 パーキングブレーキの機能	17
5-2 アワーメータ	17
5-3 オートマチックコントロールトラクション	17
6. 芝刈機の操作方法	18
6-1 エンジンの始動	19
6-2 トラクタ及びエンジンの停止方法	19
6-3 トラクタの操作	19
6-4 芝刈り操作	19
6-5 後進しながらの芝刈り	20
6-6 後進しながらのアタッチメント操作	20
6-7 手で芝刈機を押す方法	20
6-8 38",44"及び 50"モアデッキの刈高さ調整	21
6-9 40" モアデッキの刈高さ調整	21
6-10 トレーラーを付ける	22
6-11 モアデッキの脱着(一部モデル)	23
6-12 モアデッキの脱着(SNAPPER モデル)	24
6-13 保管	25
6-14 芝の手入れ	26
6-15 マルチングの使用法	28
7. 定期点検表	29
7-1 インターロックシステムの点検	30
7-2 ブレードブレーキの点検	30
7-3 タイヤ圧の点検	30
7-4 PTO クラッチの調整・点検	30
7-5 エンジンのメンテナンス	30
7-6 バッテリーのメンテナンス	31
7-7 リアアクスルシャフトのグリスアップ	31
7-8 グリスアップと給油	32
7-9 モアブレードの点検	33
7-10 40"モアのブレードタイミングの確認	34
7-11 トランスミッションの識別	35
8. トラブルシューティング	36
8-1 トラクタのトラブル	36
8-2 芝刈機側のトラブル	37
8-3 シートの調整	39
8-4 バッテリーの充電	39
8-5 ハンドルの調整	40
8-6 ハンドルギアの調整	40
8-7 ブレーキの調整	40
8-8 PTO クラッチの調整	41
8-9 モアの調整	42
8-10 モアベルトの交換	44
9. 仕様諸元	49

1 安全の手引き

- このたびは弊社芝刈機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
- この説明書は芝刈機の正しい取扱方法と、簡単な点検と手入れについて説明してあります。
- 運転する前に必ずお読みいただき、正しく安全な取扱いをお願いします。
- 本機の品質には万全を期しておりますが、作動の不具合や部品などに不備な点がありましたら、弊社、購入販売店、または協力サービス工場へご連絡ください。
- この取扱説明書はいつも手元に保管して繰り返しお読みください。
- 取扱説明書に記載された使用方法及び保守点検を守らない場合は、本機の故障や事故などの原因となり、機械の寿命を縮めるばかりでなく作業の安全を損ないます。
- お問い合わせの際は、モデルNo.、シリアルNo.を、お知らせください。



取扱説明書を読む事

この取扱説明書は、操作前はもちろん操作中の注意事項、重要事項全て含んでいます。安全な運転技術、製品の特長、操作方法、全ての安全に関する情報が含まれ、全てを理解する事で製品を最大限使用する事が可能となります。

この取扱説明書の安全の情報と操作方法をよく読み、完全に理解してください。



この芝刈機は、安全の為に世界基準を満たすよう設計、製造されています。作業者に安全に使用していただけますが、誤った使用方法やメンテナンスを怠ると重大な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。作業者の安全と周囲の人の安全を守る為に、作業者が責任を持って、使用してください。作業中は常に安全を心がけてください。作業中に安全を確認できない場合は、販売店へご相談ください。

子供を機械に近づけない事



事故は、子供と共に起こる事があります。作業場所には、決して子供を近づけないでください。近づく可能性がある場合は、必ず、責任のある他の大人が監視してください。エンジンが止まっている場合でも、決して子供を機械に乗せてはいけません。重大な事故を引き起こす可能性があります。

後進に関する注意



特に必要にない限り、後進しながら芝刈をしないでください。どうしても後進が必要な場合、常に後方を確認してください。急ると重大な事故を引き起こす可能性があります。

傾斜地での操作



急な斜面で機械を使用した場合、重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。急すぎる斜面や補助装置などが無い状況で使用すると、コントロールを失ったり、横転する可能性があります。補助装置が無い状態では決して傾斜地で操作しない事が一番です。6mで1m以上上昇する傾斜では、決して操作しないでください。

また、傾斜地の表面の状況により、安定性と操作性に影響がでます。濡れていたり、安全が確保できないと判断された場合は、決して傾斜地で作業してはいけません。

稼動部に関する注意



この機械には、危険が伴う稼動部が多数あります。しかし、作業者が適切な操作を行なっている限りは、安全に操作できます。デッキには、非常に鋭利なブレードが回転しています。機械が作動中は、決して手や足、体をデッキに近づけてはいけません。この機械にはオペレーターが安全に操作できる為に、安全装置が付いています。この安全装置を解除したり、取り外したりしないでください。安全装置が機能していない場合は、直ちに販売店へ相談してください。

障害物に関する注意



この機械には、回転刃がついています。障害物があるとブレードが、障害物を吸い上げ吹き飛ばし、重大な事故を引き起こす可能性があります。芝刈を行なう前に、作業場から障害物を取り除いてください。芝刈機を使用する際は、集草装置を付けるか、サイドシュートを取り付けてください。

もし、作業現場に誰かが入った場合、直ちにエンジンを止め、作業現場から出て行くまで始動しないでください。

燃料とメンテナンスに関する注意

ガソリンは非常に可燃性があります。また、蒸発したガソリンは、非常に可燃性があり、大変危険です。ガソリンは、燃料としてのみ使用し、溶剤やクリーナーとしては決して使用しないでください。火災を引き起こさない為に、ガソリンは、機械の燃料タンクにあり燃料キャップがしっかりされているか、燃料缶に入れ、キャップがしっかりされている状態で保管してください。ガソリンをこぼしてしまった場合、すぐに拭き取ってください。ガソリンの適切な管理は、機械の安全性と操作性に非常に重要です。特に、安全に関するメンテナンスは定期的に点検し、取扱説明書に記載の保守手順を必ず実行してください。



2 使用上の注意、警告事項



以下の安全事項をよく読み、完全に従ってください。これらの安全事項に従わない場合、機械のコントロールを失い、作業員や周囲の人に重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。また、機械に損傷を与える可能性があります。

この芝刈機は身体や周囲の物に損傷を与えるものを飛散させたり、手や脚を切断してしまう恐れがあります。

注意事項、警告事項を必ず守ってください。

2-1 一般的な操作

1. 機械を始動する前に、この取扱説明書をよく読み、理解してください。
2. 絶対に稼働部や機械の下に手や足を近づけないで下さい。特にデッキの排出口には、常に近づけないでください。
3. 機械の操作に精通した大人だけ操作してください。
4. 作業エリアに障害物（石、おもちゃ、ワイヤ等）がある場合は、回転刃によって飛散する場合がありますので、作業前に必ず取り除いてください。
5. 作業を始める前に、作業エリアに人がいない事を確認してください。もし、作業エリアに人がいる場合は、作業エリアから離れるまで作業を行わないでください。
6. 決して人を運ぶ為に使用してはいけません。
7. 特別な必要がない限り、後進しながら芝刈をしてはいけません。後進する際は、方向をよく確認してゆっくり後進してください。
8. 芝刈の際に出る排出物を、壁や障害物に直接ぶつけないでください。排出物が跳ね返り、作業員に戻る可能性があります。砂利などの上を通る時は、必ずブレードの回転を停止してください。
9. 集草バック、サイドシュート、その他安全装置が排出口に取り付けられていない状態での作業は絶対に行わないでください。
10. 旋回する際は、ゆっくり行なってください。
11. 動いている機械を無人で放置してはいけません。機械から離れる際は、PTOスイッチを解除し、パーキングブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜いてください。
12. 芝刈をしない時は、ブレードPTOスイッチは停止してください。機械の清掃、グラスキャッチャーの取り外し、サイドシュートの取り外しはエンジンを停止し、稼働部が完全に停止した事を確認してから行なってください。
13. 機械の操作は、明るい日中か、十分に明るく光を照らした状態で行なってください。
14. 飲酒泥酔、薬物を吸引した状態で機械の操作をしてはいけません。
15. 道路の近くで操作する際は、交通状態に注意してください。
16. 機械をトラック等に積み込む際は、特に注意してください。
17. 機械を操作中は、常に保護メガネを装着してください。
18. 60才以上の方が芝刈機を運転する場合に、芝刈機に関連した怪我をすることが非常に多いという統計があります。60才以上の方は自分自身や他人に大怪我をさせないで安全に芝刈機を運転できる技量があるか良く判断することが重要です。
19. 機械に重り、ウェイトをつける際は、製造元が推奨する物を使用してください。
20. 作業員は、他人や他人の財産に関する事故を引き起こした場合、責任を負わなければならない事を常に意識して作業を行なってください。
21. 全ての作業員が、専門的知識、実用的な操作方法を身につける必要があります。
22. 作業をする際は、必ず長ズボンや安全靴を履いてください。裸足、サンダルなどで作業を行わないでください。
23. 使用前にブレードが安全に確実に取り付けられているか目視により確認してください。磨耗していたり、損傷している場合は交換してください。
24. 給油する際、機械の調整をする際に、アタッチメントが邪魔になる場合は、アタッチメントを取り外してください。
25. 機械を駐車する際、格納する際、無人で放置する際は、機械的に動かない状態にしてください。

26.作業者が離れる際は、どんな理由であれパーキングブレーキをかけ、PTOスイッチを解除し、エンジンを停止し、キーを外してください。

27.火災の危険性を減少させる為、刈芝、落葉、可燃物から離して下さい。刈芝、枯葉等の近くに停車しないでください。

2-2 保管と輸送する際の注意

1. トラックに載せる際は、機械がトラックの荷台の前方にしっかり接地しているか確認してください。もし、後方のあおりに設置している場合は、あおりを破損させる可能性があります。
2. 機械を保管、輸送した後に給油をする際は、安全に的確に給油を行なってください。
3. 通気、換気が十分に行えない場所には、ガソリンを入れたまま機械を保管しないでください。蒸発したガソリンは、非常に可燃し易い為、非常に危険です。
4. 短期間、長期間の保管に関わらず、保管する際は常に取扱説明書に従って保管してください。
5. 保管後、再び使用する際は、エンジン取扱説明書に従い、適切に始動してください。
6. 燃料缶などをしっかり封ができない容器（湯沸しポットなど）に保管しないでください。機械を保管する際は、エンジンが冷えてから保管してください。

2-3 傾斜での操作

傾斜での作業は、機械が制御不能になる可能性がある大きな要因です（適切に操作を行なわないと、重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります）。傾斜における作業は、常に危険が伴います。安全上、補助的な処置が取れない場合や作業場不安を感じる場合は、決して傾斜で作業を行なわないでください。傾斜での歩行作業や乗用機が傾斜ですべった場合、ブレーキでは制御できなくなります。制御不能を引き起こす主な要因は、以下の通りです。

不十分なタイヤと地面の接地力、スピード出し過ぎ、不十分なブレーキ、機械の能力を超えた作業、作業エリアの状態の認識不足、不適切な牽引の負荷分配など。

1. 傾斜に対して、上下に芝刈を行なってください。傾斜に対して横切って作業しないこと。
2. 穴、溝、隆起した部分に注意してください。不整地により転倒する可能性があります。また、高い芝草により地面の状態が確認できない場合がありますので注意してください。
3. 傾斜で作業している間は、遅い速度で作業をし、速度調整は行なわないでください。
4. 芝生が濡れている時は、作業を行なわないで下さい。タイヤがスリップし、制御不能になる可能性があります。
5. 傾斜を下る時は、常にギアを入れてください。機械がすべるのを防ぎます。
6. 傾斜での始動、停止、旋回は行なわないでください。タイヤが制動を失い、大変危険です。
7. 傾斜では、全ての作業をゆっくり行なってください。速度の急な調整、急旋回は絶対に行なわないでください。
8. グラスキャッチャーや他の集草装置を使用している時はより注意してください。それらは、機械の安定性に影響を及ぼします。急勾配では、使用しないでください。
9. 傾斜で作業をする際、足で機械を支えながら行なわないでください。
10. 急斜面、溝、堤防の近くでは芝刈を行なわないでください。
11. 急斜面では、グラスキャッチャーを使用しないでください。
12. 安全を確信できない斜面では、決して作業しないでください。
13. 重りやウェイトを機械に取り付ける際は、販売店の推奨する物を使用してください。
14. 石や大きな枝等を作業前に取り除いてください。
15. 必ず低速で作業してください。ブレーキが制動しても、タイヤが制御を失う可能性があります。
16. 必要ない場合は、傾斜で旋回しないでください。どうしても旋回が必要な場合は、ゆっくり旋回してください。

2-4 牽引装置（乗用タイプ）

1. 牽引ヒッチが取り付けられている芝刈機にのみ牽引装置を取り付けてください。牽引部以外には、牽引装置を取り付けしないでください。
2. 牽引する傾斜角度や必要なウェイトは、製造メーカーの規定する範囲で使用してください。
3. 牽引された装置に、子供、その他の物・人を決して載せないでください。
4. 牽引装置にウェイトを載せて傾斜で使用すると、芝刈機の制御が失われる可能性があります。
5. 必ず低速で作業し、停止する際は十分な距離を確保してください。
6. ニュートラルの状態、傾斜を下らないでください。

2-5 小児に対する注意

子供の存在には、十分注意してください。注意を怠ると重大な事故が発生する可能性があります。子供は、芝刈機に興味を示します。決して子供がいる場合は、作業を行なわないでください。

1. 作業エリアに子供がいる場合は、作業エリアの外側に出るか、作業員以外の大人が子供を監視しているのを確認してから作業を行なってください。
2. 子供が作業エリアの中に入った場合は、すぐに作業をやめ、エンジンを停止してください。
3. 後進をしている時は、後ろに子供がいない事を常に確認してください。
4. ブレードが回転していない場合でも、決して子供を芝刈機に乗せてはいけません。落ちて大怪我をしたり、安全に芝刈作業を行なえなくなる可能性があります。過去に芝刈機に乗った事のある子供は、突然作業エリアに入り、芝刈機に近づく可能性があります。
5. 決して子供に芝刈機を運転させてはいけません。
6. 見通しの悪いコーナー、木の周り、障害物等に近づく時は十分に注意してください。

2-6 排気に関する注意

1. この芝刈機のエンジン排気ガスからは、一定の量で人体に害を及ぼす物質が出る場合があります。エンジン作動中は、必要以上に近づかないでください。
2. エンジン排出ラベルで、排出物質を確認してください。

警告

16.7%（10度）以上の傾斜では、決して芝刈機を使用しないでください。16.7%とは水平に6mで1m上昇する勾配です。

傾斜で機械を操作する時は、ホイールウェイトかカウンターウェイトを使用してください。販売店へ適切なウェイトを確認して使用してください。

傾斜で使用する前に、低速になっている事を確認してください。

フロントのウェイトに加え、後部に集草装置を取り付けている場合は十分に注意してください。

傾斜に対して、上下に芝刈を行なって下さい。決して、傾斜に対して横切る方向で芝刈を行なわないでください。方向転換を行なう際は、十分に注意してください。傾斜で始動、停止を行なわないでください。

2-7 イグニッションシステム

1. このイグニッションシステムは、カナダのICES-002に従事しています。

2-8 修理とメンテナンスに関する注意

ガソリンの取扱い

1. 全てのタバコ、葉巻、パイプ等の全ての火を消してください。
2. 消防法で承認された燃料缶だけを使用してください。
3. 芝刈機が動いている時に、燃料を補給したり、燃料キャップを外したりしないでください。
4. 決して屋内で機械に給油を行なわないでください。
5. 火の気のあるところでの保管、給油は絶対に行なわないでください。
6. 輸送中やトラックの荷台で補給は行なわないで下さい。トラックや輸送機から離れた場所で補給してください。
7. トラックなどのガスの発生する機具は取り除いて、地面で補給してください。燃料缶などを使用して補給してください。
8. 燃料が完全に満タンになるまで、燃料タンクに接触しているノズルは開いておいてください。
9. 燃料が衣服に付いた場合は、直ぐに着替えてください。
10. 決して燃料を溢れさせないでください。燃料キャップをしっかりと締めてください。
11. ガソリンや他の燃料を扱う際は、十分に注意してください。燃料は、非常に可燃性があります。
12. もし燃料がこぼれた場合、よく拭き取り、こぼれた箇所が完全に乾くまで、エンジンは掛けないでください。
13. 給油が終わったら、しっかりと全ての燃料キャップを取り付けます。
7. 集草装置やサイドシュートは、頻繁に点検を行なってください。必要に応じて修理してください。
8. 刈刃は非常に鋭利な物です。修理する際は防護手袋等を必ず装着し、十分に注意してください。
9. ブレーキは頻繁に点検してください。必要に応じて修理してください。
10. 安全ラベル、警告ラベルはきれいに保ってください。必要に応じて交換してください。
11. こぼれたガソリンが着火する可能性がありますので、エンジンが熱い時は、燃料フィルターは交換しないでください。必要以上に、ホースクランプを広げないでください。燃料フィルターとホースにしっかりとホースクランプが取り付けられている事を確認してください。
12. エンジンの燃料システムに損傷を与える為、メタノールを含むガソリン、10%以上のエタノールを含むガソリン、ガソリン添加物は使用しないでください。
13. ガソリンタンクからガソリンを抜く場合は、屋外で行なってください。
14. 不具合のあるマフラーは取替えてください。
15. 純正部品だけを使用してください。
16. 工場出荷時の仕様に従って、設定と調節を行なってください。
17. 修理や点検は適切な場所で行なってください。
18. 適切な知識や技術がない場合は、大掛かりな修理は行なわないでください。不適切な修理方法は、製造元の保証等を受けられない場合があります。
19. 複数のブレードが付いている芝刈機の場合、1つのブレードが他のブレードを回転させる場合がありますので注意してください。
20. エンジンガバナーの設定を変えないでください。エンジンを改造し、エンジン回転を上げると、作業者の危険を上げる事になります。
21. 清掃、点検、修理、障害物に衝突した場合、サイドシュートを外す等の際は、エンジンを停止し、キーを抜き、スパークプラグを抜いてから行ってください。
22. 芝刈機が動いている際は、HST冷却ファン等稼動部に手などを決して近づけないでください。
23. この機械には、油圧ポンプまたは油圧モーターが取り付けられています。

修理とメンテナンス

1. 一酸化炭素が発生している可能性がある場所では、決して機械を作動させないでください。
2. ナットとボルト、特にブレード取り付けボルトは、しっかりと取り付けられているか確認してください。
3. 決して安全装置を変更しないでください。定期的に安全装置は点検し、必要であれば適切に修理してください。
4. 芝刈機から刈草、草、その他付着物を取り除いてください。オイル、ガソリンの吹きこぼれはきれいに拭き取ってください。
5. 障害物等にぶつかって停止した場合、再始動する前に、芝刈機を点検してください。
6. エンジンが作動している時は、決して調整や修理を行なわないでください。

警告 加圧下の状態の時、作動油は皮膚などに重大な怪我をさせるだけの強い力があります。油圧部に関する箇所は、頻繁に点検し、油漏れ等がある場合は、販売店へ連絡し、修理を行なってください。

警告 動力部を保管する際：スプリング等を取り外す際は、非常に危険です。熟練した技術者が取り外してください。

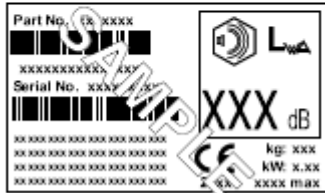
24.エンジンラジエーターを備えているモデルに関して：

警告：熱い冷却液が噴出す可能性がある為、エンジンが作動中は決してキャップを外さないでください。キャップを外す際は、エンジンが完全に冷めた事を確認してから行ってください。

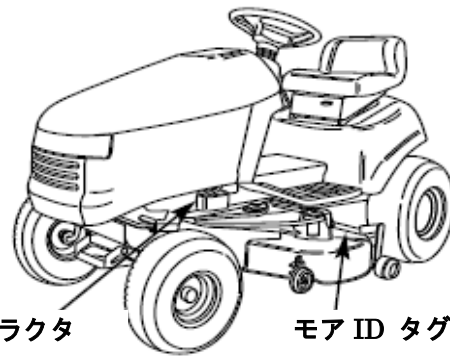
3 識別番号



North American /
CE Models



CE Models
(Only)



トラクタ
ID タグ

モア ID タグ

修理、点検、部品注文の際、販売店へ製品の情報が必要となります。

モデル名/型式、認識番号、エンジンモデル・タイプ・コード番号を記録しておいてください。これらの番号は、芝刈機の図に示された箇所に示されています。

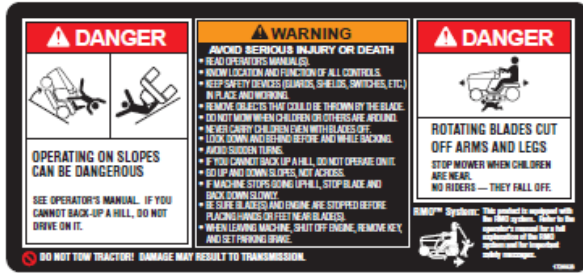
注意: エンジン番号の確認位置に関しては、エンジンの取扱説明書を参照ください。

製品データ	
モデル名 / 型式 (Model Description Name/Number)	
製品工場識別番号 (Unit MFG Number)	製品シリアル番号 (Unit SERIAL Number)
モアデッキ工場識別番号 (Mower deck MFG number)	モアデッキシリアル番号 (Mower deck SERIAL Number)
購入販売店名	購入日
エンジンデータ	
エンジンメーカー	エンジンモデル (Engine Model)
エンジンタイプ/ スペック (Engine type/Spec)	エンジンコード/ シリアル番号 (Engine code/Serial number)

4 警告ラベル

この芝刈機は、適切に操作すれば、安全に使用できるように設計、生産されています。この取扱説明書をよく読み、基本知識を理解して操作いただければ、安全に有効にこの芝刈機を取り扱うことができます。操作中に特に重要な説明を警告ラベルとして、機械に貼ってあります。

North American Models



CE Models



All Models



Decal - Transmission Release
Part No. 1723160



Decal - Ignition Positions
Part No. 17228



Decal - Cutting Height
Part No. 1723470



Decal - Cutting Height
Part No. 1723470

安全マークの説明



警告：取扱説明書をよく読み理解する事。

機械を操作する前に、取扱説明書をよく読み、理解してください。



危険：飛散物に注意する事。

この機械は、回転するブレードにより、物が飛散する可能性があります。周りに人がいる場合は遠ざけてください。



警告：修理や点検する前に必ずキーを抜く事。

修理や点検を行なう前に必ずキーを抜いてください。修理をする際は、必ず修理マニュアルを参照してください。



危険：転倒に注意する事。

この機械は、10°以上の傾斜では使用しないでください。



危険：回転部に注意

この機械は、回転部により怪我や重大な事故を引き起こす可能性があります。子供や近くに人がいる場合は、操作前に遠ざけてください。



危険：回転部に注意

モアデッキは、非常に鋭利なブレードが回転しています。手や足をデッキに近づけないでください。



PTO スイッチ

PTO スイッチは、ブレードの回転の「ON」「OFF」の切り替えをするスイッチです。このスイッチを引き上げると、ブレードが回転します。ブレードの回転を停止する時は、このスイッチを押すと停止します。

- * 操作する人が座席にしっかりと座っていないとこのスイッチは作動しません。



イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチは、エンジンを始動、停止させるスイッチです。3つの位置があります。



OFF エンジンの停止と全ての電機回路を停止させます。



RUN エンジンが回転している時の位置と電気回路を機能させる位置です。



START エンジンを始動する為にクランクさせる位置です。

注意: エンジンが停止した状態で、「RUN」の位置のままにしないでください。バッテリーあがりを起こします。



ブレーキペダル

芝刈機を停止させる為にブレーキペダルを踏み込みます。



スピードペダル

芝刈機の走行速度は、前進スピードペダルを踏み込むことで調整できます。後進するには、後進スピードペダルを踏み込みます。前進は、ペダルを前方に踏み込むほどスピードが早くなります。

- * 速度の出しすぎに注意してください。



パーキングブレーキ

パーキングブレーキノブは、芝刈機が停止している時に、ブレーキをロックさせる為に使用します。ブレーキを踏み込んだ状態で、パーキングブレーキノブを引き上げ、ブレーキを離すとロックされます。



刈高調整

38"、44" & 50" モアデッキ

刈高調整ノブで芝刈機の刈高を調節します。刈高は、2.5cm~9.2cmです。

40" モアデッキ

刈高調整レバーで芝刈機の刈高を調節します。レバーを放すためにボタンを押し、所用の高さとなった位置でロックするためにボタンを離してください。刈高は、2.5cm~9.2cmです。



刈高さ微調整 (40"芝刈デッキのみ)

刈高さの微調整は、予めセットされた2つの刈高さと間での高さをセットするのに用いられます。



アタッチメントリフト調整レバー

輸送する際など芝刈を行っていない時は、芝刈デッキを上げてください。デッキを上げた状態(輸送ポジション)で芝刈は絶対に行なわないでください。

アタッチメントリフトコントロールレバーは、トラクターの手動リフトリンクを利用するアタッチメントを上げ下げします。アタッチメントの下降:それが降ろされた位置でロックするまで、わずかにレバーを引いて、リリースボタンを押し込ませて、前にレバーを押してください。アタッチメントの上昇:わずかにレバーを前に押してください。リリースボタンを押し込ませてください。所定の位置でロックするまで、レバーを引いてください。



クルーズコントロール(一部モデル)

クルーズコントロールは、前進時にスピードを固定するために用いられます。希望スピードになるまで、前にレバーを動かしてください。クルーズコントロールをはずすために、レバーを動かしてください。急停止する必要がある場合には、ブレーキペダルを踏み込むと、クルーズコントロールもニュートラルになります。



シート位置調節レバー

シート位置は、前方後方に移動できます。レバーを動かして、シートの位置を決めてください。位置が決まったら、レバーを離せばロックされます。



トランスミッション油圧解除レバー

トランスミッション油圧解除レバーは、芝刈機を手で押せるようにする為の油圧解除レバーです。「手でトラクターを押す」項目を参照ください。



燃料タンク

キャップを外す為には、反時計回りに回転させてください。機種によってはダッシュボードに燃料ゲージの表示があります。また機種によってはダッシュボードには無く、シートの下に燃料ゲージがあります。



12V 外部出力（一部機種）

DC12 ボルトの出力端子があります。定格 14 アンペア以下のアクセサリに使用してください。

5-1 パーキングブレーキの機能

パーキングブレーキの作動-図 2 走行スピードペダルAを放し、ブレーキペダルBを踏み込み、パーキングブレーキノブCを上へ引き上げるとパーキングブレーキが作動します。

パーキングブレーキの開放- 図 2 ブレーキペダルBを踏み込んで、パーキングブレーキノブ(C)を下へ下げてパーキングブレーキを開放します。

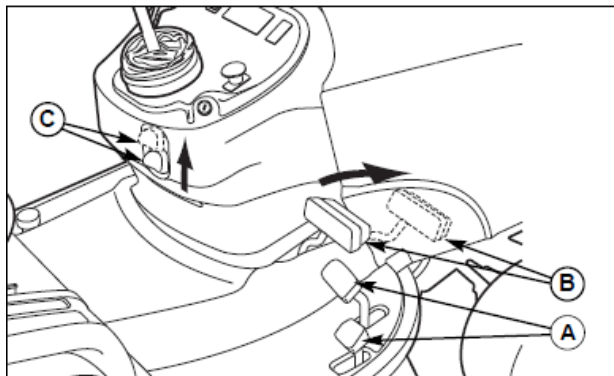


図 2. パーキングブレーキ

- A. スピードペダル
- B. ブレーキペダル
- C. パーキングブレーキ ノブ

5-2 アワーメータ

アワーメータはキースイッチが「RUN」となっている間の時間を計測しています。メータは最初の運転5時間とオイル交換を必要とする50時間毎に点滅します。ディスプレイのメモリーは約2時間でリセットされます。

注意: アワーメータはキースイッチが「RUN」となっている間の時間でエンジンが運転されなくとも作動しています。時間が常に見えるように、アワーメータは内臓電池を備えています。

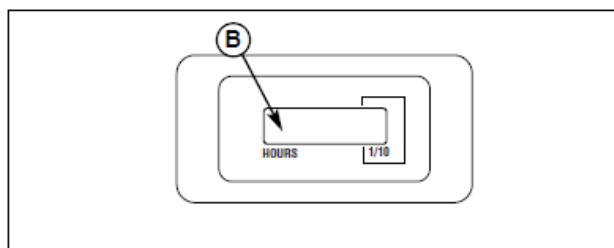


図 3. アワーメータ

5-3 12 ボルト出力 (一部機種)



注意

ケガに注意してください。安全な操作にはオペレータの十分な注意が必要です。ラジオを聴いたり、ヘッドホンを付けたままで機械を操作しないでください。

DC12 ボルト出力端子は左側のポッド(図 1 の **12V**)にあります。小容量の電気機器の使用に用います。アクセサリは定格 9 アンペア以下で使用してください。

注意: 12ボルトのアクセサリを使用するに当たり、エンジンは低速で運転するとバッテリーが放電します。

このプラグを使用しないときは必ずゴムプラグをして、ショートすることを防いでください。水が混入するとショートすることがあります。

5-4 オートマチックコントロールトラクション

オートマチック コントロール トラクション(ACT)とは、独特な牽引をするためのトランスミッションの特徴です。たとえばすべり(一方の後輪がすべり始めるならば、ACTの無い伝達は完全に牽引を失います)始めると、ACTは予めセットされたトルクを両方の後輪に駆動します。この予めセットされたトルクはさらに牽引するのに十分です。そして、ホイールが芝生に損害を与えることなく急なターンにおいても異なる速度でターンさせます。

ACT 付トラクタとは

ほとんどの場合、トラクタの稼働中は、ACTが働いている事に気がつきません。単にACT伝達からの牽引となっています。

特定の状況の下で、後輪のうちの片輪がすべる場合(たとえば、加速しながら丘を越える場合)ACTシステムは機能します。

牽引力がなくなった場合、減速して停止し、ステアリングホイールを直進として、ゆっくり加速してください。トラクタを止めることで、伝達牽引力を回復させます。

6 芝刈機の操作方法



安全装置

この芝刈機には、安全装置が付いています。これらの安全装置は、作業者の安全を守る為に付いています。決して取り外したり、改造したりしないでください。定期的に安全装置を点検し、正常に作動するか確認してください。

安全装置の点検

この芝刈機は、座席に安全装置が付いています。春と秋に定期的に座席の安全装置の点検を下記に従って行なってください。

テスト1-下記の状態のいずれかが機能している場合、エンジンは始動しません。

- ・ PTOスイッチが「ON」の状態にある時
- ・ ブレーキペダルが十分に踏み込まれていない時(パーキングブレーキがOFF)
- ・ クルーズコントロールレバーがニュートラルの位置以外にある時

テスト2-下記の状態が全て満たされているときエンジンは始動します。

- ・ PTOスイッチが「OFF」の状態
- ・ ブレーキペダルが十分に踏み込まれている状態(パーキングブレーキがON)
- ・ クルーズコントロールレバーがニュートラルの位置にある時

テスト3-下記の状態のいずれかが機能するとエンジンは停止します。

- ・ PTOスイッチが「ON」の状態で作業者が座席を離れた場合
- ・ ブレーキペダルが十分に踏み込まれていない(パーキングブレーキ OFF)状態で、作業者が座席から離れた時

テスト4-ブレードブレーキの点検

ブレードとデッキドライブベルトは、PTOスイッチを「OFF」または作業者が座席から離れると、5秒以内に停止します。もし、5秒以内に停止しない場合は、販売店に相談してください。

テスト5-RMO (Revers mow Option) スイッチの点検

- ・ PTOスイッチが「ON」の状態、かつRMOスイッチが機能していない状態で後進するとエンジンは停止します。
- ・ RMOライトは、RMOが機能している時に点灯します。

注意: 一旦エンジンが停止したら、作業者がエンジンを始動するために座席に座った後、PTOスイッチを回されなければなりません。



警告

この安全装置が完全に機能していない場合、芝刈機を使用してはいけません。販売店へ御相談ください。安全装置が十分に機能していない状況で、安全装置を改造しないでください。

一般的な安全操作の為に

この芝刈機を使用する前に、取扱説明書を良く読み、安全に関わる全ての情報を確認してください。全ての操作と停止方法を良く理解してください。

燃料の補給

1. 燃料キャップを外してください(図4のA)
2. 燃料を満タンにしてください。入れ過ぎに注意してください。燃料タンクには、余分なスペースがあるようにしてください。推奨される燃料は、エンジンの取扱説明書を参照ください。
3. 燃料キャップを取り付け、手でしっかりと締めます。



ガソリンにメタノール混入したり、エタノールが10%以上混入した燃料、添加剤もしくはホワイトガソリンは使用しないでください。エンジン及び燃料系統を損傷することがあります。



警告

ガソリンは非常に可燃性のため、注意して取り扱われなければなりません。エンジンがまだ熱いとき、タンクに補給しないでください。裸火に近づけたり、喫煙しないでください。タンクを満タンにせず、こぼさないでください。

6-1 エンジンの始動

1. 適切な位置にある座席に座ります。ブレーキペダルを十分に踏み込む、またはパーキングブレーキノブを引き上げます。
2. スピードコントロールペダルを踏んでいないことを確認して、クルーズコントロールレバーをニュートラルとします。
3. PTO クラッチが「OFF」になっている事を確認します。
4. スロットルレバーを「FULL」にします。
5. チョークを閉じます。

注意：暖まっているエンジンの再始動をする際はチョークを閉じる必要はない場合があります。

6. イグニッションキーを「START」の位置に回します。
7. エンジンが始動したら、チョークを戻し、スロットルを「SLOW」の位置に戻します。数分間暖機運転を行なってください。
8. スロットルを「FULL」にします。

注意：緊急時には、イグニッションキーを「STOP」の位置に戻して、エンジンを停止させてください。緊急時以外は、「停止方法」に従ってエンジンを停止させてください。

6-2 トラクタ及びエンジンの停止方法

1. スピードペダルを離し、ニュートラルに戻します。
2. PTO スイッチを押し、ブレードの回転を停止します。
3. エンジンスロットルを、アイドルの位置にして、しばらく待ちます。エンジンが熱い状態でエンジンを急停止させると、エンジンにダメージを与えます。
4. イグニッションキーをOFFにし、キーを外します。

6-3 トラクタの操作

1. 座席に座りシートの位置を作業者の作業しやすい位置に調整します。ダッシュボードをご覧ください。
2. パーキングブレーキをかけます。
3. PTO スイッチがOFFであることを確認してください。
4. エンジンを始動します。（「エンジンの始動」の項参照）
5. ブレーキペダルを離し、パーキングブレーキノブを押し下げます。
6. 前進するには前進スピードペダルを踏み込み前進させます。ペダルを離せば停止します。強く踏み込めば走行スピードは速くなります。
7. スピードペダルを離してトラクタを停止させパーキングブレーキをかけエンジンを停止させます。（「停止方法」参照）

6-4 芝刈り操作

1. 刈高を刈り込もうとする高さに調節してください。ゲージホイール適切な位置としてください。（オプション）
2. パーキングブレーキをかけてください。PTO スイッチがOFFになっている事を確認してください。
3. エンジンを始動してください。（「エンジンの始動」項参照）
4. モアリフトレバーを使用して、デッキを一番下まで下げます。
5. エンジンスロットルをフル回転にします。
6. PTO スイッチを引き上げ、ブレードを回転させます。
7. 芝刈りを始めます。
8. 芝刈り作業が終了したら、PTO スイッチをOFFにし、モアリフトレバーでデッキを上げます。
10. エンジンを停止します。（「停止方法」項参照）



警告

PTOスイッチがONの状態、かつRMOスイッチが機能していない場合に後進するとエンジンは停止します。作業者は、芝刈する時以外の道路を横断する場合等には、PTOスイッチをOFFにして走行してください。



警告

芝刈しながら後進する事は、周囲の人にとって危険が及び可能性があります。特に子供の存在には、作業者が細心の注意を払わないと、重大な事故が起こる可能性があります。子供が近くにいる場合、RMOスイッチを機能させて、芝刈り作業を行わないでください。子供は、しばしば機械や芝刈作業場に寄ってくる傾向があります。

6-5 後進しながらの芝刈り

RMO (Reverse Mow Option) を使用すれば、後進しながら芝刈作業を行なえます。PTOスイッチをONにしてから、RMOキーをまわします。LEDランプが点灯したら、後進しながら芝刈作業が行なえます。RMOは、PTOスイッチがOFFになると機能しなくなります。RMOキーは、必要時以外は、外しておく事を推奨します。

6-6 後進しながらのアタッチメント操作

RMO (Reverse Mow Option) を使用すれば、後進しながらアタッチメントの作業を行なえます。PTOスイッチをONにしてから、RMOキーをまわします。LEDランプが点灯したら、後進しながらアタッチメントの作業が行なえます。RMOは、PTOスイッチがOFFになると機能しなくなります。RMOキーは、必要時以外は、外しておく事を推奨します。

6-7 手で芝刈機を押す方法

1. PTOスイッチをOFFにし、エンジンを停止します。
2. トランスミッション開放レバー (図4のB) を押し込みながら下に下げて、リリース位置で固定します。
3. 芝刈機は手で押せます。

トラクタを牽引しないでください



トラクタを牽引することは、トランスミッションに損傷を与えます。

押すか、この単位を引くために、別の車両を使わないでください。

エンジン運転中に、リリースバルブレバーを作動させないでください。

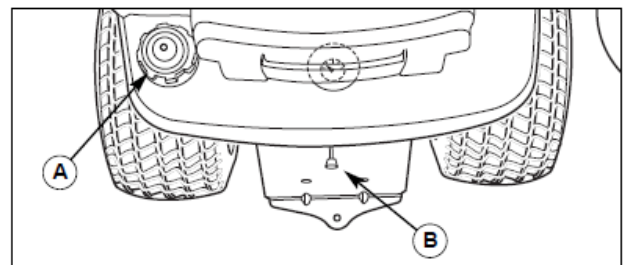


図4 トランスミッション リリース レバーと燃料タンク

- A. 燃料タンク
- B. トランスミッション リリース レバー

6-8 38”、44” 及び50” モアデッキの刈高さ調整

刈高さ調整ノブ(図5のB)をコントロールして刈高さを調整します。刈高さは無段で約25mmから92mmまでの間で調整できます。ノブを時計方向に回すと、デッキが上がります。反時計方向ではデッキが下がります。

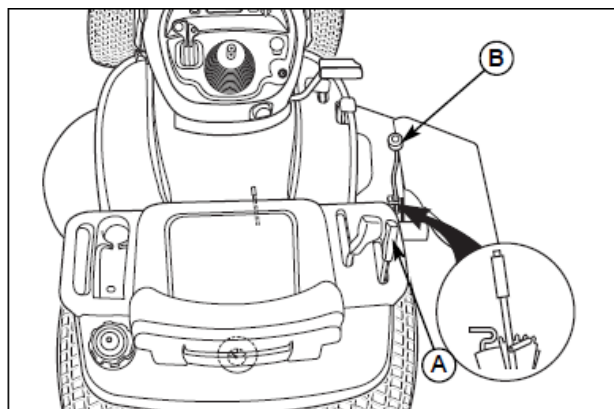


図5 38”、44” 50”モアの上げ下げ

A. モアリフトレバー

B. モア高さアジャスタ

6-9 40” モアデッキの刈高さ調整

刈高さ調整レバー(図6のA)をコントロールして刈高さを5段階で調整します。

移動時には最も高い刈高位置としておこななければなりません。(最も高い刈高で刈らないでください)芝刈りの際は、下の4ヶ所の位置を使います。レバーをデッキが草の1/3以上の高さにセットしてください。

所用の刈り高さが2つのノッチの間であれば、正しい高さにするために、刈り高さ微調整調整装置(B)を使ってください。

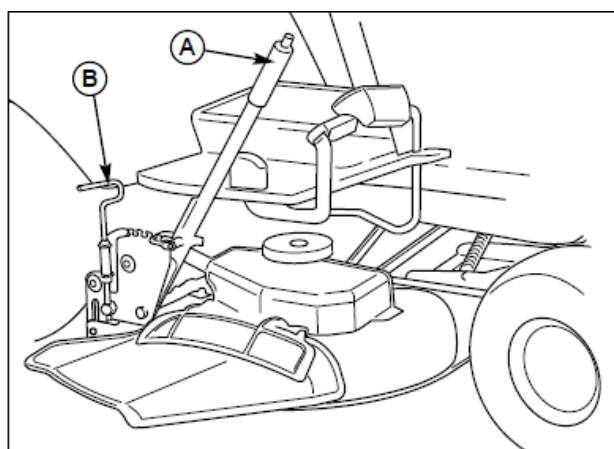


図6 40”モアの上げ下げ

A. 刈高さレバー

B. ファインチューニング アジャスタ

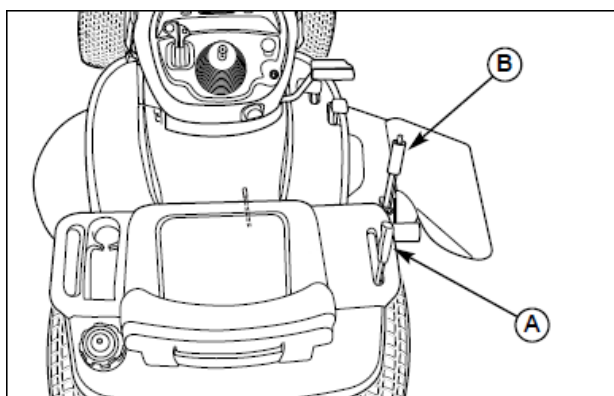


図7 40”モアの上げ下げ

A. モアリフトレバー

B. モア高さ微調整装置

6-9 アタッチメント使用時のリフト機構

除雪機またはブルドーザのブレードをトラクタに取り付ける場合、リフト機構は下への力を保つためにロックされなければなりません。モアデッキが再度据え付けられるとき、デッキが浮くことができるように、下への圧カロックは離されなければなりません。

手動リフトモデル

注：これらの案内は Broadmoor 300/1600/2600 シリーズでリフトレバーキット付トラクタに適用します。

リフトリンクは、どんな付属品が使われているかによって、違った方法で取付されます。関連取付情報のために図 8 を参照してください。

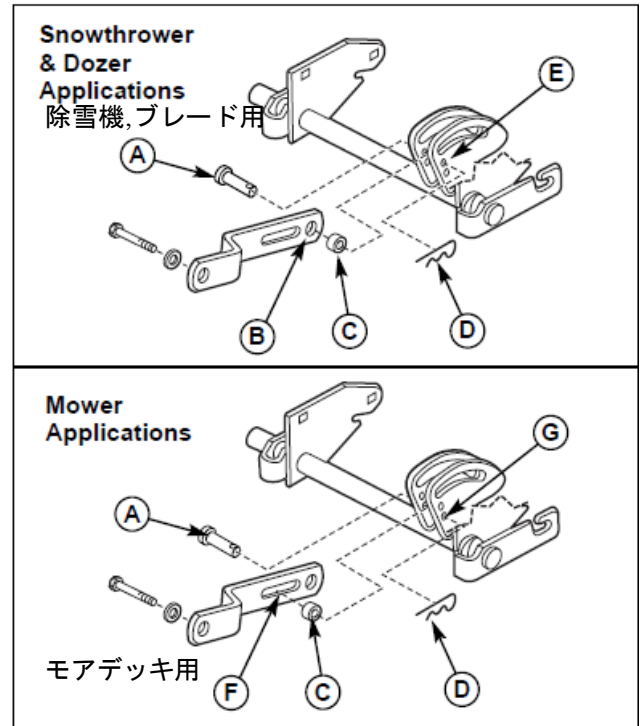


図 8 リフトリンク - 手動リフト

- A. ピン
- B. リフトバー下部孔 (除雪機用)
- C. スペース
- D. クリップピン
- E. 上部孔 (除雪機用)
- F. リフトリンク スロット (モアデッキ用)
- G. 下部孔 (モアデッキ用)

6-10 トレーラーを付ける

最大水平引張力は 444N です。最大垂直引張力は 222N です。これは 10 度の傾斜角で 396 ポンド (180kg) 荷重のトレーラーと同等です。クレビスピン (A、図 9) とクリップ (B) でトレーラーを固定してください。

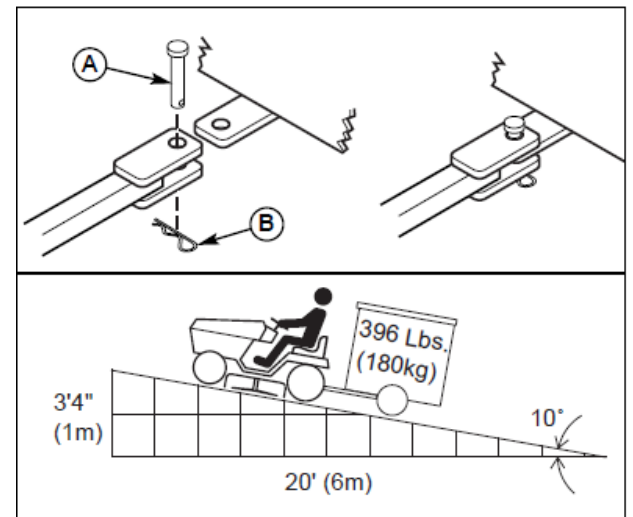
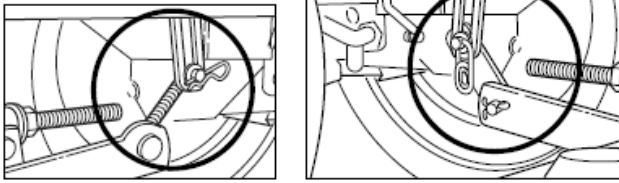


図 9. 推奨トレーラー荷重

- A. クレビスピン
- B. クリップ

6-11 モアデッキの脱着

(PTO 軸付一部モデル)



警告

モアデッキを脱着する際には、パーキングブレーキをかけ、PTO 軸を外し、エンジンを停止してください。

モアデッキの取り外し

1. トラクタをコンクリート面等硬い水平な場所で行なってください。機械を停車し、PTO スイッチを OFF にしてください。パーキングブレーキをかけ、キーを抜いてください。
2. モアデッキのモア高さ調整装置を調整して、最少刈り高さとします。
3. アタッチメントリフトを一番下まで下げます。
4. モア吊り上げアーム(図 10 の A) をトラクタリフトアーム(B)から外します。ワッシャ(C)と安全クリップ(D)を取り付けます。
5. ベルトを PTO プーリ(図 11 の B)から外します。



注意

マフラ周辺部は熱くなっています。

6. ハンドルで前輪をまっすぐとして、スプリング付レバー(図 12 の B)を引き下ろします。
7. ハンドルを左いっぱいいきり、運転席から見て右側からモアデッキを引き出します。

モアデッキの取り付け

1. トラクタを平らな面に置き、PTO とエンジンを切ります。エンジンキーを抜き取り、パーキングブレーキをかけます。ハンドルを左いっぱいまできります。
2. モア調整装置(図 5-7 の B)を最も低い位置とします。モアのリフトレバーを低い位置とし、トラクタの右側から押し込み、手に引き上げトラクタフロントブラケット(A)に取り付けます。
3. 図 12 のようにハンドルを真っ直ぐとし、スプリング付レバー(B)をモアヒッチに持ち上げます。正しくモアヒッチをフロント

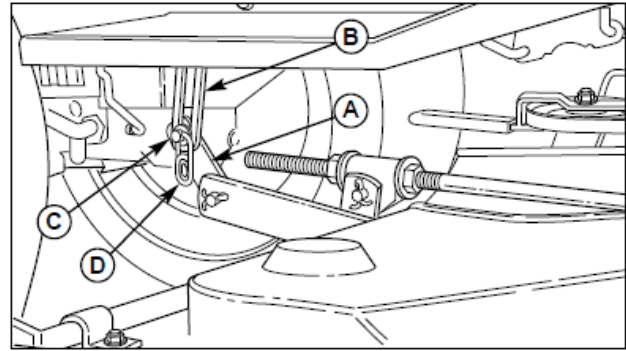


図 10 リフトアーム

(トラクタの右側から見た図)

- A. モアリフトアーム C. フラットワッシャ
B. トラクタリフトアーム D. 安全クリップ

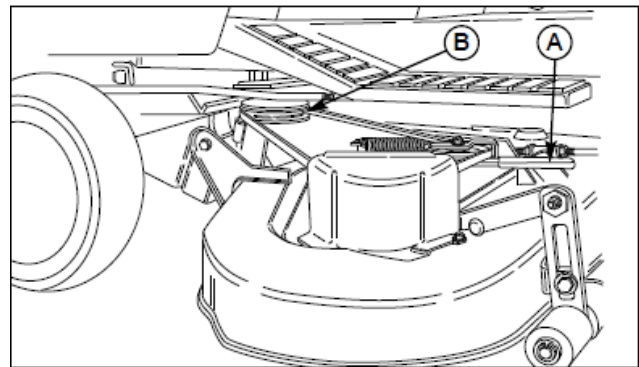


図 11 ベルトの脱着

- A. アイドラ アーム
B. PTO プーリー

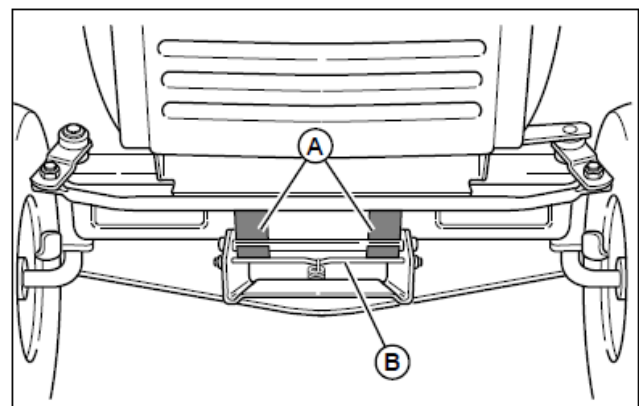


図 12 モアヒッチ

- A. トラクタヒッチ ブラケット
B. スプリング付レバー

トラクタヒッチ(A)に取り付け、スプリング付レバーを上を回し込みます。

4. 図 10 を参照してモアリフトアーム(A)トラクタリフトアーム(B)にフラットワッシャ(C)と安全クリップ(D)を取り付けます。
5. 図 11 のようにアイドルアーム(A)を引っ張り PTO プーリ(B)にベルトを入れます。

6-12 モアデッキ の脱着 SNAPPER Model



パーキングブレーキをかけ、PTOスイッチを切り、エンジンを停止します。モア脱着の際はエンジンキースイッチを抜いてください。

モアデッキの取り外し

1. トラクタをコンクリート等硬い水平な場所で行なってください。機械を停車し、PTOスイッチをOFFにしてください。パーキングブレーキをかけ、キーを抜いてください。
2. モアデッキのモア高さ調整装置を調整して、最少刈り高さとします。
3. アタッチメントリフトを一番下まで下げます。
4. 安全クリップ(図13のAとH)、ワッシャ(G)を下部ハンガ(E)から外します。上部ハンガ(B)をリフト柱(F)からはずす。上部ハンガ(B)をリアハンガに安全クリップ(A)を付け間違えたり、紛失しないように注意してください。
5. アタッチメントの高さ位置を最少高さとします。
6. リフトチェーン(D)をリフトフック(C)から外し、逆の側も同様に行ないます。



注意

マフラ周辺部は熱くなっています。

7. ベルトをPTOプーリ(図11のB)からはずします。
8. ハンドルで前輪をまっすぐとして、スプリング付レバー(図12のB)を引き下ろします。
9. ハンドルを左いっぱいいきり、運転席から見て右側からモアデッキを引き出します。

モアデッキの取り付け

1. トラクタを平らな面に置き、PTOとエンジンを切ります。エンジンキーを抜き取り、パーキングブレーキをかけます。ハンドルを左いっぱいまできります。
2. モア調整装置(図5-7のB)を最も低い位置とします。モアのリフトレバーを低い位置とし、トラクタの右側から押し込み、手に引き上げトラクタフロントブラケット(A)に取り付けます。
3. 図12のようにハンドルを真っ直ぐとし、スプ

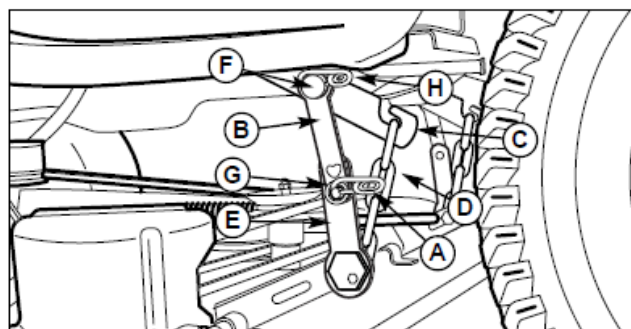
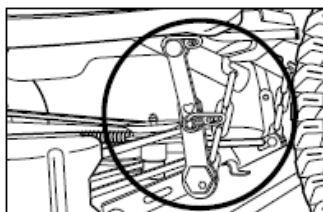


図13 リフトアーム

(トラクタの左側からの図)

- | | |
|------------|------------------|
| A. 安全クリップ | E. 下部ハンドル |
| B. 上部ハンドル | F. リフトフック柱 |
| C. リフトフック | G. ワッシャ |
| D. リフトチェーン | H. 安全クリップ(オプション) |

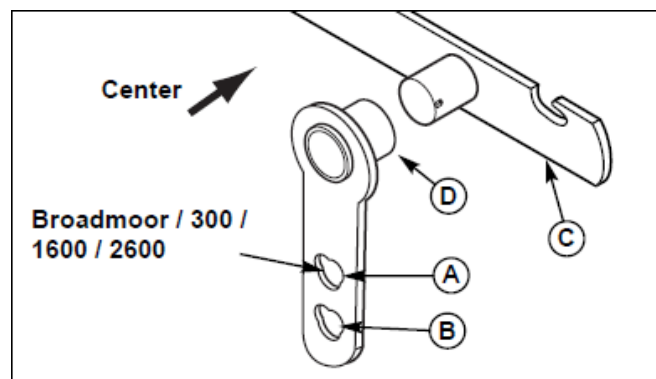


図14 アッパーハンガー

- | | |
|--------|-----------|
| A. 上部孔 | C. リフトフック |
| B. 下部孔 | D. ロングハブ |

リング付レバー(B)をモアヒッチに持ち上げます。正しくモアヒッチをフロントトラクタヒッチ(A)に取り付け、スプリング付レバーを上に戻し込みます。

4. 図13を参照してリフトチェーン(D)をリフトフック(C)に接続します。逆の側も同様に行ないます。
5. アタッチメントの高さ調整を最も高い位置とします。
6. そのままであれば、安全クリップ(図13のAとH)を上部ハンガ(B)と下部ハンガ(E)から外してください。リフトフック(F)の上にポストについて上部ハンガ(B)を入れ、リフトフック(F)の上にポストに上部ハンガ(B)を入れてください。上部ハンガーのロングハブ(図14のD)を中央にします。下部ハンガー(D)の上にある上部ハンガ(図13のB)の上の孔につないでください。ワッシャ(G)と安全クリップ(AとH)でこていしてください。逆の側も同様に行ないます。

注意:Broadmoor/300/1600/2600 は図 14 による上部の孔に入れます。

8. 図 11 のようにイドラアーム(A)を動かしてベルトテンションを緩め、ベルトを PTO プーリ(B)に入れます。



警告

機械を閉め切った場所や通気性の悪い場所にガソリンを入れたまま保管しないでください。蒸発したガソリンは、暖房器具や湯沸しポット等により引火し、爆発する可能性があります。

蒸発したガソリンは、人体や動物に影響を及ぼす可能性があります。

6-13 保管

オフシーズンに機械保管する前に、「使用上の注意」の保管の項目をよく読んでください。その後、下記の方法により保管してください。

- ・ PTO スイッチを OFF にし、パーキングブレーキをかけ、キーを抜いてください。
- ・ エンジンの取扱説明書に記載された、エンジンメンテナンスと保管の仕方を実行してください。これは、燃料システムから燃料を抜くか、燃料劣化防止剤を入れる事も含んでいます。
- ・ バッテリーを外し、涼しくて乾燥した場所で 1 ヶ月に 1 度ぐらいの頻度でフル充電するとバッテリーの寿命は延びるでしょう。バッテリーを機械に取り付けたままにしておく場合は、マイナスケーブルをバッテリーから外しておいてください。

保管後、機械を動かす前に

- ・ 全てのオイルレベルや点検項目を点検してください。
- ・ エンジンの取扱説明書に従い、全ての点検項目の点検を実行してください。
- ・ 芝刈機を使用する前に、数分間暖気運転を行なってください。

6-14 芝の手入れ

水分と肥料、通気はいつ? どのように?

通常湯水以外では、殆どどの芝生面はしばしば灌漑されています。しかし、あまりにたくさんの水は、芝生に病気を発生させることとなります。必要に応じて均一に、ゆっくりと芝生に散水することが必要です。それは豪雨ではないずぶぬれの雨です。

いつ芝生に散水するべきですか?

芝生が弱ってくると草の色は鈍くなります。もしくは踏み付けた際の足跡が2、3秒以上圧縮されたままとなります。芝生は乾燥し始めていて、水分を必要とします。散水の最も良い時間帯は早朝です。水を深く芝生にしみ込ませることが出来ます。熱い午後では太陽の熱で蒸発してしまいます。

芝生への散水方法

芝生に散水するよい方法は、ゆっくりとたっぷりの散水をすることです。

芝生を肥沃にさせるには?

肥料は均一に散布することで芝の成長に不足した栄養分を提供します。あまり多くの肥料散布をすると芝に危害を起こすことがあります。肥沃にさせるには春から夏かけて散布することが良く、夏季を通して芝生に養分が吸収されます。

芝生を通気する

春に芝生に通気(エアレーション)してください。芝生から土のコアを取り除くためにローンスパイク等のエアレータを使うことで芝生を活性化させることが出来ます。土に穴を開けて水、肥料と通気をすることによって、より芝生の深い根本の成長を促します。



芝はどのくらいの高さで刈ればよいの?

草をあまり短く刈ると弱く細い草となってしまいます。それは乾燥と感染症によって簡単に損害を受けます。

草が乾燥した熱い熱で、必要な湿気を保つことが出来ません。

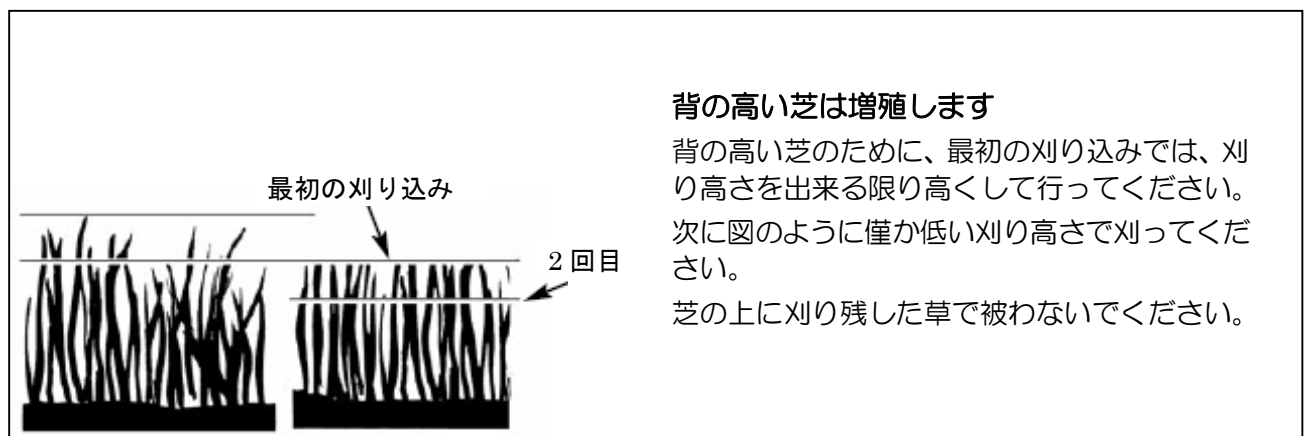
一気に長く刈ってしまうと芝生の成長システムに衝撃を与えて、芝生を弱めます。良い方法は1/3規則です。芝草の高さを3分の1しか刈り取らないことをお勧めします。

1/3以下の長さで刈る



草の上部からの1/3未満が最適な刈り高さ

この部分で切ると、芝の生長に大きく影響します



背の高い芝は増殖します

背の高い芝のために、最初の刈り込みでは、刈り高さを出来る限り高くして行ってください。次に図のように僅か低い刈り高さで刈ってください。

芝の上に刈り残した草で被わないでください。



いつ、どれくらい刈ればよいのか?

芝を刈り込む時刻は、芝の成長に大きく影響します。

良い成長のために次のガイドラインに従ってください：

- 芝の長さが7.5~10cm になったら、刈り込んでください。
- 刈刃は鋭い刃で刈ってください。2cm 以下の刈り込み量として、少しずつ刈ることが、長い刃で駆ることよりよい結果となります。芝刈機の刈刃が鋭いと、きれいに能率的に芝を刈ります。
- 乾燥して涼しいときに刈ってください。夕方に刈り取るのが良いでしょう。
- 雨上がりや濃霧の際には刈らないでください。マルチングする際にはこのように芝が濡れているときは、絶対に行わないでください。

注意: 芝刈りの際にはエンジンはいつもフルスロットルで行ってください。

適切な芝刈速度

エンジン回転数と走行速度

常に芝を刈るとき、フルスロットルでエンジンを運転してください。

エンジンの回転数が下がっているようであれば、走行速度が早すぎるため、より遅い走行速度で芝刈りをすれば、刈り上がりが改善します。

芝の密集度と高さでトラクタの走行速度をサードギアか、マニュアルシフトでは中速とするか、HSTモデルでは遅い速度とします。エンジンの回転数が下がってきた場合、走行スピードを遅くします。



どのくらい刈り込めばよいか

芝の高さが7.5~10cm になったら、一回の刈り取る高さは2cm 以下の刈り込みとしてください。

6-15 マルチングの使用法

マルチングすることで

マルチングはモアデッキ内で少なく刈り込んだ草をさらに細かく粉砕して芝に撒きます。

細かい粒子となった草は、芝生の成長への副産物に分解します。マルチングにより芝に細かな粒子が覆うようになります。

マルチデッキの限界

芝が湿っているとき、または芝があまり高い場合、芝刈機にマルチングを施すことはできません。通常の芝刈りより、マルチングするには、草が乾燥していて、1/3 程度の高さしか刈らないことが必要です。

春先の初回や2回目の切り込みの際にはマルチングをしないでください。長い芝や、成長期の芝は湿っていることが多いため、通常の横出しの芝刈りをしてください。

適切な走行速度とエンジン回転数

フルスロットルでエンジンを回し、ゆっくりとした走行速度で回ると、細かい粒子となります。

マルチング作業中は、エンジンに大きな負荷がかかりますので、ゆっくりとした走行速度で行ってください。

正しい刈り高さ

あまり長く刈ることは、一度に植物の成長システムに衝撃を与えて、芝を弱めることとなります。適切な方法としては 1/3 規則です。芝の高さの3分の1のみを刈ることで、約 2cm 以上刈らずに少しずつ刈ることが必要です。

マルチングには芝の 1.3~2cm の高さを刈ります。これにより細かな粒子となります。この高さは芝の品質や気候によって異なります。わずかな刈り込みと遅い走行速度で確認してください。良く仕上げるためにも、刈り幅を重ねて(オーバーラッピング)することを薦めます。

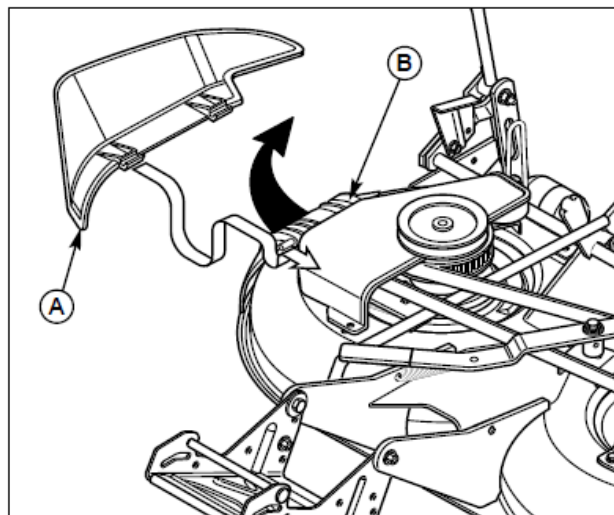


図 15 サイドディスチャージ・ディフレクタの取り付け

- A. サイドディスチャージ・ディフレクタ
- B. マルチ・カバー

サイドディスチャージ・ディフレクタの使用

サイドディスチャージ・ディフレクタを使用する時: 長くなってしまった芝はいつもの刈り高さでマルチングをしないでください。このような場合は、サイドディスチャージ・ディフレクタをとりつけ、刈り取った芝を横に放出した刈り込みをしてください。これによりきれいに芝を刈ることが出来ます。エンジンスピードは降るスロットルとしてください。

芝刈り時にエンジンの回転が落ち込む場合は、走行速度をおとしてゆっくりと芝刈りをしてください。7.6~12.7cm ほどの長い芝を刈る際にも、一回目は 2.5cm ほどの刈り込みとしてください。



警告

モアデッキにディスチャージシュートやマルチング・ディフレクタを取り付けずに運転しないでください。

ディスチャージ・シュートの取り付け方法:

1. マルチングカバー(図 15 の B)を持ち上げます。
2. マルチングカバーの下側にサイドディスチャージ・ディフレクタを差し込みます。このディフレクタのフックをマルチングカバーヒンジロッドに取り付け、マルチングカバーで固定します。
3. マルチングカバーから手を離します。

7 定期点検表

- ・下記に従って、定期点検を行なってください。不明な点は、販売店にご相談ください。
- ・もし、点検で、不具合があった場合は、修理、交換が行なわれるまで、使用してはいけません。

		使用する前に	5時間使用ごとに	25時間使用ごとに	100時間使用ごとに	250時間使用ごとに	使用シーズンの初めと終わりに
安全装置	インターロックの点検						●
	ブレーキの点検						●
	ブレード停止時間の点検				●		●
本機、デッキのメンテナンス	本機、デッキのねじの緩み点検		●				
	オイルクーラーの点検・清掃(取り付けられている場合)			●			
	クーリングフィンの点検・清掃(取り付けられている場合)**				●		
	PTO クラッチの点検・清掃					●	
	トラクタ及びモア部の潤滑**			●			
	リアアクセルシャフトグリスアップ						1年に1度
	バッテリーとバッテリーケーブルの清掃				●		
	タイヤ空気圧点検			●			
	デッキの清掃とブレードの点検***				●		
	トランスミッションの点検4(注2)					***	
	油圧システムのフィルタの交換(取り付けられている場合)					**	
	モアブレードタイミングの点検(40°モアの場合)						1年に1度
	ベルトテンションドライブの点検(40°モアの場合)						1年に1度
エンジンのメンテナンス	エンジンオイル量点検	●					
	エアクリーナー点検・清掃*						
	エンジンオイルとフィルタの交換*						
	スパークプラグ清掃・点検*						
	燃料フィルタ点検・交換*						

* エンジンの取扱説明書に基づいてください。エンジンオイルは最初の運転 5 時間で交換してください。

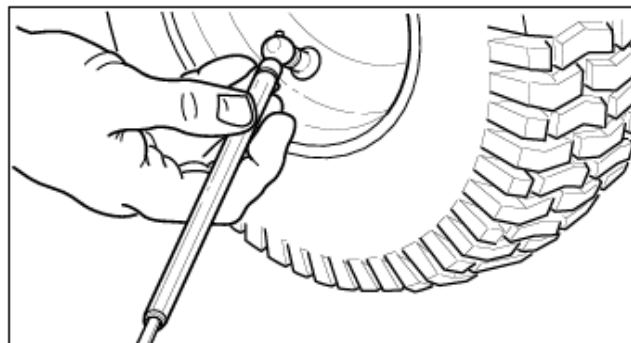
** 外気温が 30℃以上の高温時や埃の多い下での運転時には、頻繁に行ってください。

*** 最初の運転 50 時間で行い、後は運転 250 時間毎に行ってください。

7-1 インターロックシステムの点検

点検間隔: シーズンの初めと終わり

セフティインターロック・システムについては、このマニュアルの 15 ページにあるテスト手順を使用しているシステムと連結することを確認してください。トラクタがこのテストいずれにも合致しない場合は販売店と相談してください。



7-2 ブレードブレーキの点検

点検間隔: 100 時間枚及びシーズンの初めと終わり

PTO スイッチが切られたあと、モアブレードとモアドライブベルトは 5 秒以内に完全に止まらなければなりません。

1. トラクタをニュートラルとし、PTO スイッチを入れてオペレータが運転席に座り、エンジンを始動してください。
2. フットレスト左側にあるモアドライブベルトを見てください。PTO スイッチを入れて、数秒待ってください。
PTO スイッチを外して、モアドライブベルトが止まるためにかかる時間をチェックしてください。
3. モアドライブベルトが 5 秒以内に停止しない場合は調整するか、販売店に相談してください。

図 16 タイヤの空気圧

タイヤサイズ	空気圧
22 x 10.0-8	0. 4—0.56kgf/cm ²
15 x 6.00-6	0. 84—1. 05kgf/cm ²

7-3 タイヤ圧の点検

点検間隔: 運転 2 5 時間毎

空気圧は、点検表に従い、定期的に点検する必要があります。適切な空気圧に維持することは、芝刈りの質を上げます、また、タイヤの寿命を延ばします。

7-4 PTO クラッチの調整・点検

点検間隔: 運転 250 時間毎

PTO クラッチの調整は運転 250 時間毎に点検します。その内容はクラッチがスリップしたり結合できることを確認してください。このマニュアルの調整のセクションで確認してください。

7-5 エンジンメンテナンス

すべてのエンジンメンテナンス手順と推薦のためにエンジンの取扱説明書を参照してください。

7-6 バッテリーのメンテナンス



警告

バッテリーケーブルの取り外しの際には、先ずマイナス側のケーブルを外し、取り付け時は最後としてください。手順に従わないと工具等でショートすることがあります。

バッテリーとケーブルの清掃

点検間隔: 100 時間毎

1. バッテリーから先ずマイナス側のケーブルを外します。(図 17 の A) 次にプラス側を外します。
2. バッテリーホルダ(C)を外し、バッテリーを外します。
3. バッテリー取付箇所を重曹で掃除します。
4. バッテリーのターミナルとケーブルの端をワイヤブラシで清掃してください。
5. バッテリーを元に取り付けホルダを取り付けます。
6. プラス側のバッテリーケーブル(B)を先に取り付け、マイナス側を次に取り付けます。
7. ターミナル及びケーブル端をワセリンまたは不伝導性油で被覆します。

7-7 リアアクスルシャフトのグリスアップ

点検間隔: 毎年

リアホイールハブを外して、アクスルシャフトにグリスアップする事を推奨します。そうする事により、ホイールハブがアクスルシャフトに固着するのを防ぐ事ができ、その後の作業を簡単にします。

1. イグニッションキーをOFFにし、PTOスイッチをOFFにします。サイドブレーキをかけ、前輪を車輪止めなどをして固定します。
2. ジャッキやチェーンホイストを使用し、リアフレームの中心を持ち上げます。上げすぎに注意してください。後輪が地面から上る距離が5cm以内にしてください。

注意: 安全に作業をする為に、上げすぎに注意し、後輪を外すのに必要な分だけ上げてください。

3. 後部フレームの下側をジャッキスタンド等で支えます。

注意: アクスルシャフト ASSY は、図と弱冠異なる事があります。ワッシャの数で調節している場合があります。

4. ホイール ASSY を取り外し、アクスルシャフトにリチウムグリスを塗ります。

5. 分解の逆の手順で組み付けます。機械を地面まで下げます。この時キー(図 18 の A) がキー溝と確実に合っているか確認してください。

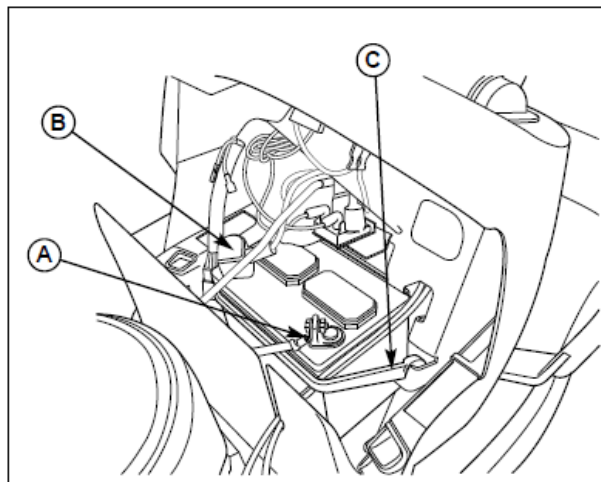
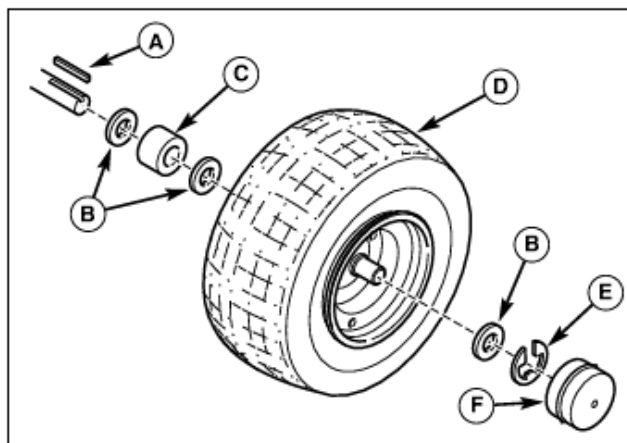


図 17 バッテリー

- A. マイナスケーブル
- B. プラスケーブルとカバー



- C. 固定ストラップ(ゴム製)

図 18 リアアクスル

- A. キー
- B. 固定ワッシャ
- C. スペーサ
- D. ホイールとハブ
- E. アクスルキャップリテーナ
- F. 小径ワッシャ
- G. Eリング
- H. アクスルキャップ
- I. 大径ワッシャ

7-8 グリスアップと給油
点検期間: 運転 25 時間毎

図 19 から図 23 で示される場所で、リストされる注油点と同様に単位に油をさしてください。通常、接触が他の部品でなされる所で、すべての可動金属部品は注油されなければなりません。ベルトと滑車から油と油を防いでください。表面を拭いて注油の前後にきれいにしてください。

グリス

- ・ ステアリング・リンケージ
- ・ フートペダル
- ・ モアリンケージ
- ・ トランスミッション・アイドラ・ピボット
- ・ リアアクスルシャフト
- ・ フロントアクスルとフレームの接続面

グリスは新しいものを使用し、自動車用リチウムグリスを薦めます。

給油

- ・ コントロールリンケージ
- ・ 座席調整部
- ・ ブレーキリンケージ
- ・ モアデッキ高さ調整リンク
- ・ マニュアルリフトレバー

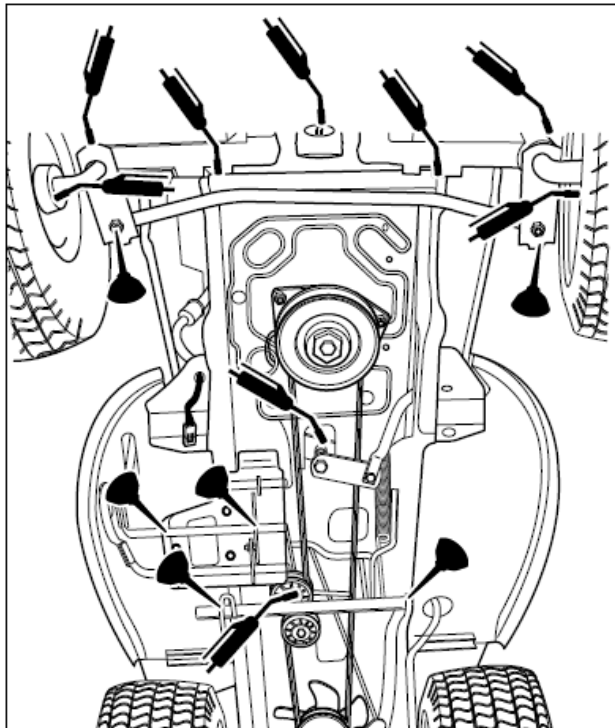


図 19 トラクタへの給油

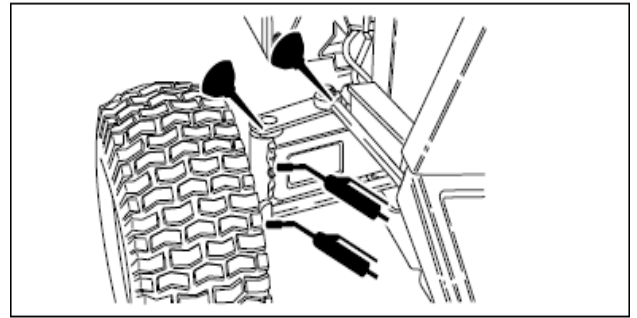


図 20 ステアリングリンクへの給油

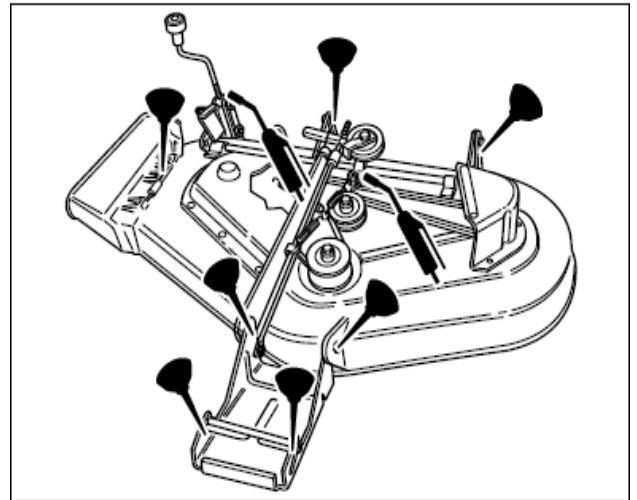


図 21 モア部への給油ポイント

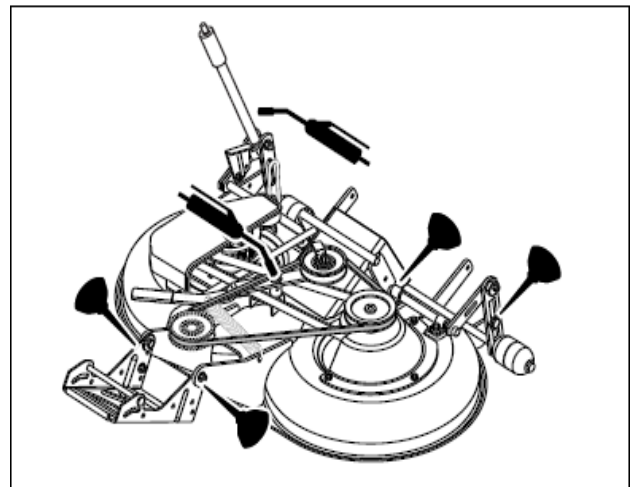
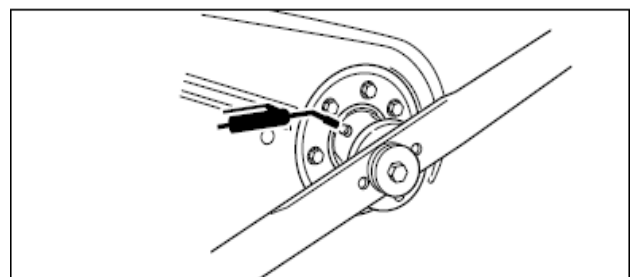


図 22 モア部への給油ポイント



アーバーの給油ポイント

警告

ブレードの点検、交換をする際は、必ず防護手袋を装着してください。ブレードは、非常に鋭利な為、重大な事故や怪我をする可能性があります。ブレードの取扱いには、特に注意してください。

警告

安全の為に、取付スクリューをしっかりと締め付けてください。締め付けトルクは、61~75Nmです。

7-9 モアブレードの点検

点検期間: 運転 100 時間及び必要に応じて

注: ブレードの刃は、クランクシャフトに対して垂直でなければなりません。

1. 芝刈機からデッキを取り外します。
2. 研磨するために、ブレードを外します。図 24 のように、木のブロックを使用して、ブレードの回転を押さえます。ブレード取付スクリューを取り外してください。
3. **38”、44” 及び 50”モア:** キャップスクリュー(図 26 の D)、スプリングワッシャ(C)、スプリングワッシャ(B)を外します。

40” モア: キャップスクリュー(図 27 の A)、スプリングワッシャ(F)、スプラインワッシャ(G)、アライメントピン(E)、ブレード(D)を外します。ブレードアダプタ(C)は外さないでください。

4. ヤスリ等を使用し、ブレードを研磨し、エッジ部の傷やへこみをおとしてください。ブレードがあまりにも損傷している場合は、交換してください。
5. 図 25 のようにブレードのバランスをみます。ブレード中心の穴に釘を打ちます。バランスのとれているブレードは、水平を保ちます。水平が保てない場合は、研磨し直すか、交換してください。
6. 図 26 に示すように、ブレードを取り付けます。ブレードが回転しないように、木のブロックを使用して、キャップスクリュー(D)、カップワッシャ(C)、ヘックスワッシャ(B)を取り付けます。締め付けトルクは、61~75Nm です。
7. **38”、44” 及び 50”モア:** スプリングワッシャ(図 26 の B)、スプリングワッシャ(C)、キャップスクリュー(D)を取り付けます。木片(A)でブレードが回らないようにしてキャップスクリュー(D)を 61-75Nm のトルクで締めます。

40” モア: 刃が図 28 のように互いのブレードに対して垂直であることを確認してください。異なっている場合、このセクション内の「ブレードタイミング」を行ってください。スプラインワッシャ(図 27 の G)、スプリングワッシャ(F)、キャップスクリュー(A)を取り付け木片(B)で固定してキャップスクリュー(A)を 61-75N.m のトルクで締めます。

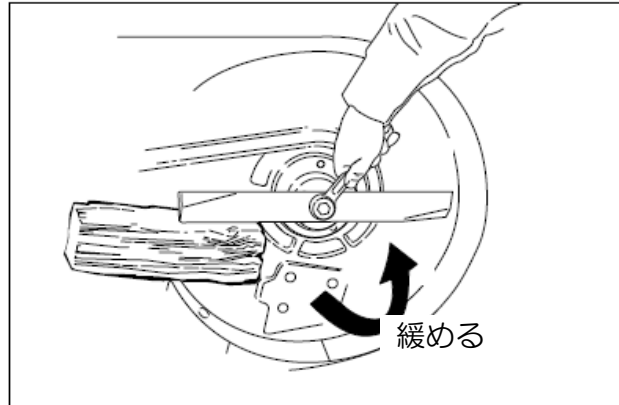


図 24 ブレードの取り外し

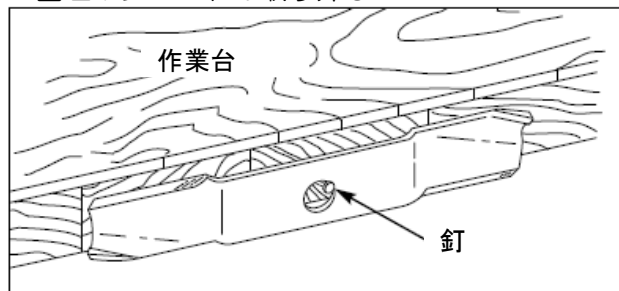


図 25 ブレードのバランスの確認

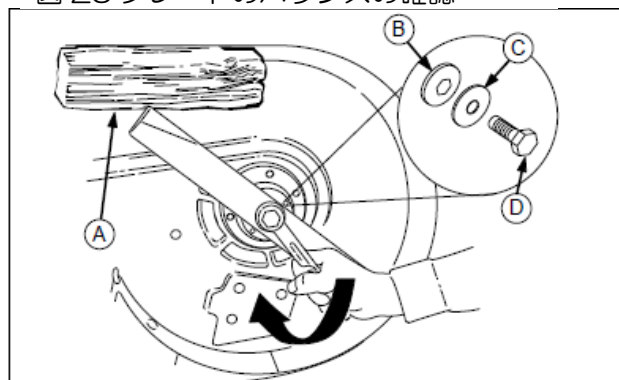


図 26 ブレードの取付- 38”,44”,50” モア

- A. 木のブロック
- B. ヘックスワッシャ
- C. カップワッシャ
- D. キャップスクリュー

7-10 40”モアのブレードタイミングの確認

点検間隔: 毎年

1. PTOスイッチを回して、駐車ブレーキをかけ、エンジンをオフにして、キーを取り外してください。モアデッキ（「モアデッキの脱着」参照）を外してください。
2. モアデッキをひっくり返して、ブレードの位置を確認してください。ブレードは、図 28 で示すように互いのブレードに対して垂直となっていないかもしれません。異なっている場合、ステップ 3 に進行してください。
3. 木片(図 27 の B)をブレードの固定用として用いキャップスクリュを緩めます。
4. キャップスクリュ(図 27 の A)、スプリングワッシャ(F)、スプラインワッシャ(G)を外します。
5. アライメントピン(図 27 の A)を外します。ブレード(D)を手で回して図 28 のように直角となるようにします。この場合、ブレードアダプタ(C)を外して回してブレードホールに合わせます。
6. アライメントピン(E)、スプラインワッシャ(G)、スプリングワッシャ(F)、キャップスクリュ(A)を取り付けます。木片(図 27 の B)を用いてブレードを固定してキャップスクリュ(A)を 61-75N.m.のトルクで締めます。

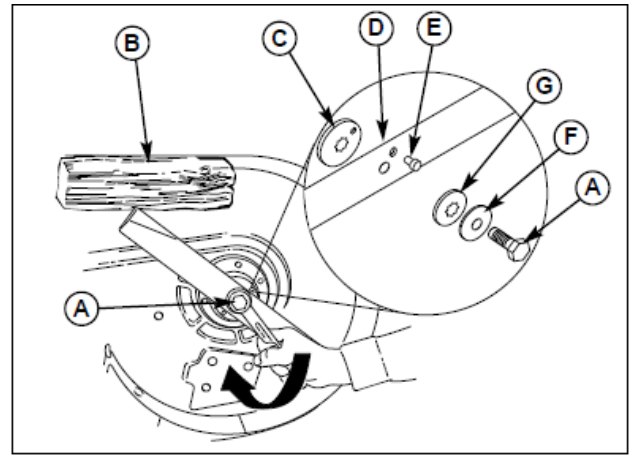


図 27 40”モアのブレード取り付け

- A. ブレード固定スクリュ
- B. 木片
- C. ブレードアダプタ
- D. ブレード
- E. アライメントピン
- F. スプリングワッシャ
- G. スプラインワッシャ

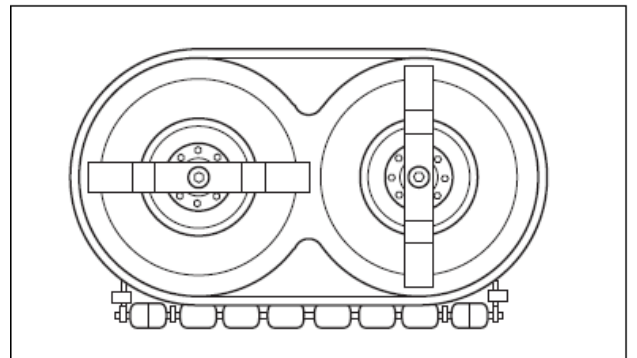


図 28 ブレードタイミングの確認

7-11 トランスミッションの識別

この取扱説明書の範囲内のいくつかのサービス手順は、識別されたトランスミッションによって異なります。どのようなトランスミッションがトラクタに取り付けられているかを、トランスミッションに貼付されたタグで確認してください。(図29)もしくは、トラクタの部品表をチェックしてください。

トランスミッションのメンテナンス



ほこり、水または他の破片がトランスミッションのオイルパンに入らないようにしてください。少量のほこりさえ、伝達に打撃を与えることができます

K57 のメンテナンス

K57は密封されたミッションで、定期メンテナンスを必要としません。トランスミッションの駆動が不十分か、騒音が大きい場合であるならば、メンテナンスが必要かもしれません。お買い求めの販売店にご相談ください。

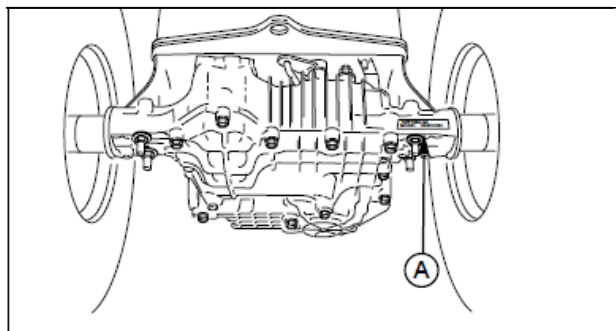


図 29 トランスミッションの ID タグ位置
A. ID タグ

8 トラブルシューティング

通常の点検と、定期的なメンテナンスは、機械の寿命を延ばしますが、長期間の使用等により特別な修理が必要となる場合があります。

下記のトラブルシューティング表には、一般的な原因を記載してあります。

トラブルの原因を解決する為に、どのようにすればいいか、簡単に行なえる調整と修理方法を記載してあります。もし不明な点は、販売店へご相談ください。

警告

重傷を避けるために、エンジンを停止し、駐車ブレーキがかかっている時のみ、トラクタまたはモアデッキのメンテナンスをしてください。

メンテナンスを開始する前に、必ずエンジンの偶然の出発を防ぐために、エンジンキーを抜いて、点火プラグワイヤを外して、プラグから離れてそれを固定してください。

8-1 トラクタのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
エンジンが回転しない/始動しない	ブレーキペダルが踏み込まれていない	ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込むか、駐車ブレーキをかけます。
	PTOスイッチがONになっている	PTOスイッチをOFFにしてください。
	速度調節レバーがニュートラルになっていない	レバーをニュートラルにしてください。
	燃料切れ	エンジンが冷えてから、給油してください。
	チョーク過多でかぶった	チョークを開きます。
	電気回路が遮断されている	オトリセットされるまで、1分間待ちます。直らない場合、販売店へ御相談ください。
	バッテリーターミナルが汚れている	バッテリーターミナルを掃除します。
	バッテリーの容量不足か不良	充電するか交換します。
	ワイヤ類が外れているか、不良	ワイヤの確認、または交換します。
	ソレノイドかスターターモーターの不良	修理か交換します（販売店へご相談ください）
	安全装置の故障	必要に応じて交換します（販売店へご相談ください）
	スパークプラグの不良、不適切なギャップ	プラグを掃除するか交換します（エンジンの取扱説明書を参照ください）
	燃料に水が混ざっている	燃料を抜き、新しい燃料を入れます。
燃料が古い	燃料を抜き、新しい燃料を入れます。	
エンジンの始動が困難/回転不足	燃料が濃厚すぎる	チョークを開けます。問題が解決しない場合、エアクリーナを掃除します（エンジンの取扱説明書をご確認ください）。
	キャブレタの調整が不適切	エンジンの取扱説明書をご確認ください。
	スパークプラグの不良	スパークプラグを掃除するか、交換します（エンジンの取扱説明書をご確認ください）
エンジンがノックする	エンジンオイル不足	エンジンオイル量を確認し、必要に応じて加えます。
	エンジンオイルのグレードが違う	エンジンの取扱説明書をご確認ください。

過度のオイル消費	エンジンオーバーヒート	冷却ファン、エアクリーナを掃除します。
	オイルのグレードが違う	エンジンの取扱説明書をご確認ください。
	エンジンオイルの入れ過ぎ	ドレインからオイルを抜いてください。
黒煙が出る	エアクリーナが汚れている	エアクリーナを掃除してください（エンジンの取扱説明書をご確認ください）
	チョークが十分に開いていない	チョークを開いてください。問題が解決しない場合、エアクリーナの点検とキャブレタの調節をしてください（エンジンの取扱説明書をご確認ください。）
エンジンは始動するが芝刈機が動かない	速度調節レバーをニュートラルになっている	レバーを前進か後進に入れます。
	トランスミッション開放レバーが「手押し」の位置にある	レバーをドライブポジションにします。
	ベルトが切れている	ベルトを交換します。
	ブレーキが十分に解除されていない	「ブレーキの調整」を参照
	ドライブベルトがスリップしている	下記参照。
ドライブベルトがスリップする	クラッチの故障	販売店へご相談ください。
	プーリーやベルトにグリスやオイルが付着	必要に応じてベルトを掃除します。
	ベルトが伸びている、ねじれている	ベルトを交換します。
	アイドラプーリーの位置がクラッチされない位置で固まっている	アイドラプーリーを外し、掃除して、滑らかにします。
ブレーキが効かない	ブレーキの調節が適切でない	「ブレーキの調整」を参照
	トランスミッション内部の問題	販売店へご相談ください。
ハンドルの動きが硬い、ゆるい	ハンドルのリンケージがゆるい	接続のゆるい箇所を点検し、固定します。「ハンドルの調整」をご確認ください。
	タイヤ圧の不足	点検して必要な圧力に調整してください。
	フロントホイールスピンドルベアリングの潤滑不足	グリスアップをしてください。「グリスアップと給油」項を参照してください。

8-2 芝刈機側のトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
モアデッキがあがらない	リフトリンケージの取付が不十分もしくは曲がっている。	修正します。
刈りあがりにムラがある	モアの高さが正しくない。	モアの調整の項参照。
	トラクタのタイヤ圧が不足	メンテナンスの項参照。
刈りあがりがラフである。	エンジン回転数が低すぎる。	エンジンをフルスロットルとしてください。
	走行速度が速すぎる。	低速とします。
	ブレードの刃先が摩耗している。	ブレードを研磨するか交換します。
	モア駆動ベルトがオイル付着でのスリップもしくは摩耗	ベルトを清掃するか交換してください。

	PTO(電磁クラッチ)調整の点検	調整の項参照。
	ブレードが正しく取り付けられていない。	モアブレードの点検の項を参照。
エンジンがストールしてモアが駆動しない。	エンジン回転数が低い。	エンジンをフルスロットルとしてください。
	走行速度が速すぎる。	低速とします。
	キャブレタの調整不良	エンジンの取扱説明書を参照。
	刈り高さが低すぎる	草が伸びすぎている場合は、刈り高さを上げて、何回かに分けて刈り込みます。
	放出シュート内に刈った芝が詰まっている。	シュート内の詰まった芝を取り除き、刈り取ったエリアに放出するようにしてください。
	エンジンの運転温度が規定に達していない。	十分に暖機運転をしてください。
	背の高い芝のエリアでエンジン始動している。	刈り終わった場所でエンジン始動してください。
	振動が大きい	モアブレード固定スクリューが緩んでいる。
ブレードが摩耗、曲がり、または破損している。		ブレードを研磨、または交換します
ブレードのバランスが狂っている。		ブレードを交換します。
ブレードの取付けが不備		ブレードをしっかりと取付けます。
ベルトが極端に摩耗もしくは切れている。	プーリの曲がりまたは損傷。	修理または交換します。
	間違ったベルトが取り付けられている。	正しいベルトと交換してください。
モアベルトがスリップしている。	アイドルプーリのスプリングが折れている、もしくは外れている。	修理もしくは交換します。
	ベルトストップの不良	点検してください。
	モアベルトが切れている。	ベルトを交換してください。
	PTO クラッチが損傷している。	販売店で点検してください。
40°モアでブレードが衝突している。	ブレードシェアピンが折れている。	シェアピンを交換してください。

8-3 シートの調整

ピッチの調整

シートのピッチは、3箇所の位置のうちのいずれかに合うことができます。調整するために、ヒンジから角根ボルト、スペーサ、ワッシャとナット（図 30 の B）を取り外して所定の穴に再インストールしてください。

シートスライド調整

シートは、前方と後方に調節できます。レバー（図 30 の A）を動かして、要望通りにシートを決めてシートを位置固定するために、レバーを放してください。

シートスプリングの調整

シートスプリング（図 30 の C）は、より柔らかく、より安定した運転ができるように調整することができます。前にシートを傾けて、より柔らかくするために、スプリング(C)を前方にすべらせてください。またより安定した運転のためにスプリングを後退させてください。

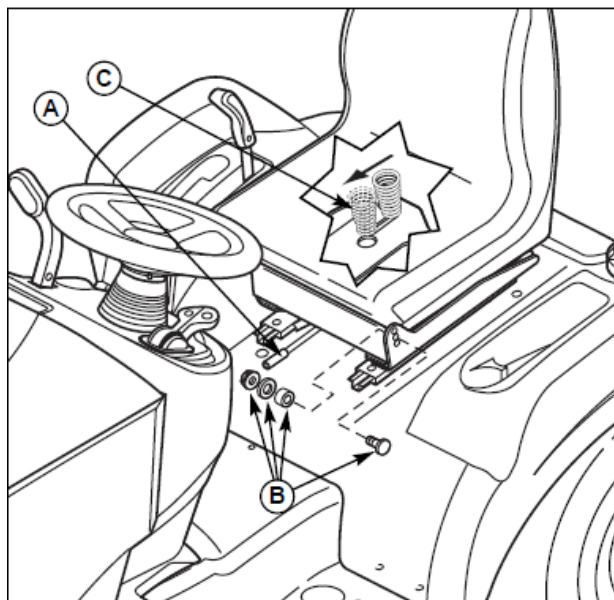


図 30 シートの調整

- A. シート調整レバー
- B. 角根ボルト、スペーサ、ワッシャとナット
- C. シートスプリング



警告

裸火からバッテリーを離してください。バッテリーからのガスは、非常に爆発的です。充電する間はバッテリーを十分に換気してください。

8-4 バッテリーの充電

5 ボルト以下の使用できないバッテリーやエンジンを始動できないほど弱いバッテリーは、充電システムまたは他の電装部品の欠陥であるかもしれません。問題の原因に対する疑いがあるならば、購入販売店に相談してください。

バッテリーを交換する必要があるならば、Cleaning の下のステップを続きます「バッテリーとケーブルの清掃」の項を参照してください。

バッテリーを充電するために、この取扱説明書の注意事項に含められるすべての警告と同様に充電器メーカーによって提供される指示に従ってください。完全充電される（電解質の比重が 1.250 以上と、温度は少なくとも 28°C です）まで、バッテリーを充電してください。10 アンペア以上充電しないでください。

8-5 ハンドルの調整

注意: Snapper ブランドモデルではハンドルは調整できません。

1. ハンドル (図 31 の B) のベースでロールピンを取り外すために、適当なポンチを使ってください。
2. ハンドルシャフト(A)の2つの穴を出すために、ゴムブーツを下に引いてください。
3. ハンドルシャフト穴にハンドルの穴を合わせて、ロールピンを入れてください。

注意: ハンドルは、工場が一番下の穴にロールピンが装置されています。

8-6 ハンドルギアの調整

ハンドルで過度の遊びがあるならば、ハンドルギアのバッククラッシュを取ることができます。

1. 図 32 を参照。ハンドルギアをトラクタの下側から見てください。ギア歯が密接にかみ合うように、2つのナットをゆるめて、ブラケットを調節してください。
2. 調整の後、49-59N.mの締め付けトルクでナット (図 32 の A) を締めてください。

8-7 ブレーキの調整

1. PTO をはずし、エンジンを停止し、車輪をブロックし、イグニッションキーを引き抜いて、駐車ブレーキをかけてください。
2. モアデッキ(「モアデッキの脱着」項を参照)を外してください。
3. ブレーキスプリング(図 33 の A)と調整ナット (B) を置いてください。
4. 駐車ブレーキをかけて、圧縮したスプリングの長さを計ってください。圧縮したスプリングは 6,4 cm でなければなりません。
スプリングがこの規定でない場合、調整ナット (図 33 の B) をいずれかの方向に回してください。

この調整でも調整出来ないなら場合、お買い求めの販売店に相談してください。

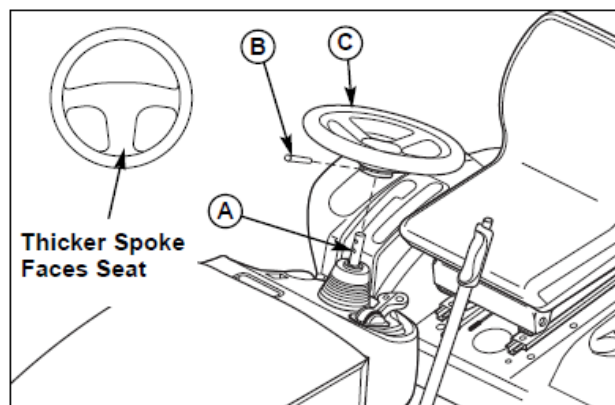


図 31 ハンドル

- A. ハンドルシャフト
- B. ロールピン
- C. ハンドル

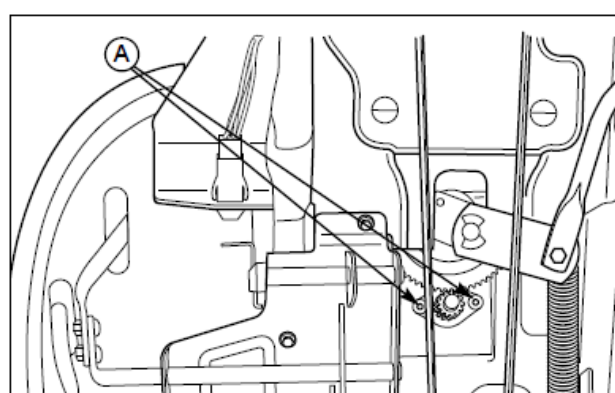


図 32 ハンドルギアの調整

- A. ナット

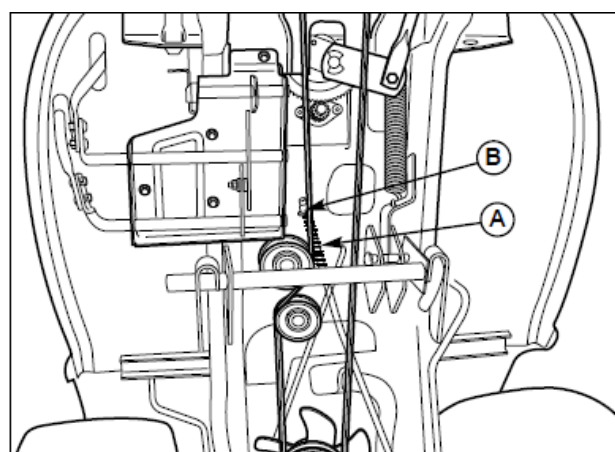


図 33 ブレーキスプリングの調整

- A. ブレーキスプリング
- B. 調整ナット

8-8 PTO クラッチの調整



警告

重傷を避けるために、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き、トラクタは平地においてください。

PTOの点検は運転250時間毎に行ってください。またクラッチがすべっているか、かみ合わない場合もしくは、新しいクラッチが取り付けされたならば、以下の手順を実行してください。

1. PTO クラッチを点検している間はイグニッションスイッチからキーを抜いて、突然の始動を防ぐために、スパークプラグワイヤを外してください。
2. 図 34 を参照し、ブレーキプレートにある3つの調整覗き穴(A)とプラスチック調整ナット(B)の位置に注意してください。
3. 各々の覗き穴を通して図35で示すようにロータとアマチュア面の間に2.5-4mmの隙間ゲージ(C)を差込みます。
4. ロータ面までアマチュア面がゲージに当たるよう調整ナット(図34のB)を交互に締めてください。
5. ゲージが挿入されて、引き抜くとき、テンションを同等にして覗き穴をチェックしてください。調整ナットを締めるか、ゆるめることで調整してください。

注：ロータとアマチュアの間の実際のエアギャップは、調整手順を実行した後も異なるかもしれません。これは構成部品の寸法のバリエーションのためによって、許容できるものです。

6. 電磁PTOスイッチが切られたあと、モアブレードの停止するまでの時間をチェックしてください。モアブレードとモアのドライブベルトは5秒以内に完全に止まらなければなりません。
7. この取扱説明書にあるメンテナンスの項目のなかにある「ブレードブレーキの点検」で点検してください。電磁PTOスイッチが切られたあと、モアブレードとモアドライブベルトは5秒以内に完全に止まらなければなりません。

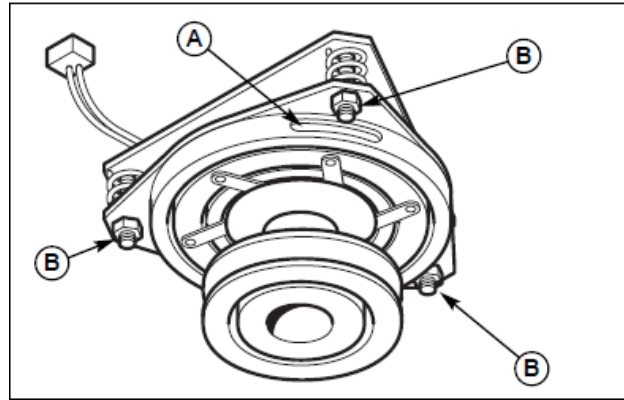


図 34 PTO クラッチの調整

- A. 調整用覗き穴(図に示すように3ヶ所)
B. 調整ナット

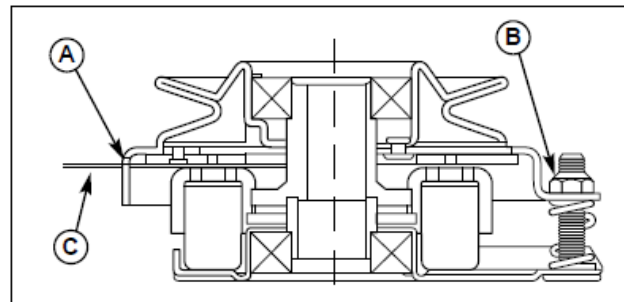


図 35 PTO クラッチの調整

- A. 覗き穴
B. 調整ナット
C. 隙間ゲージ

警告

モアをチェックする前に、PTOとエンジンを止めて、キーを取り外して、すべての可動部分を停止させておいてください。

注意

モアデッキ・バッフルを取り外さないでください。バッフルは、刈り取った草を放出したものがエンジン冷却フィンへの詰まりを防止します。

8-9 モアの調整

ゲージホイール (一部モデル)

モアゲージホイールは、芝の刈り高さに応じて、いくつかの位置に取り付けることができます。刈り高さを低くして使うとき、車輪をより低い位置でセットしてください。刈り高さを高くして使うとき、車輪を上の方でセットしてください。

調整方法は：

1. ロックナット (図 36 の B)、ゲージホイール (C)、ワッシャ (D) とショルダボルト (E) を取り外してください。ゲージホイールの位置を所用の高さに変えてください。
2. ワッシャ (D) ゲージホイール (C) を通してショルダボルト (E) ゲージホイールブラケット (A) を入れてください。ロックナット (B) で固定してください。すべてのゲージホイールのためにステップ 1 と 2 を繰り返してください。

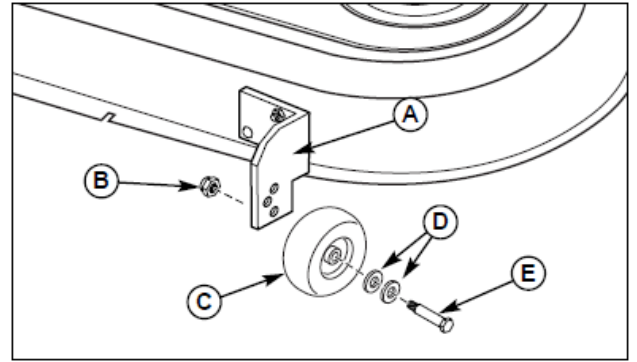


図 36 固定ブラケットとゲージホイールの調整

- A. ゲージホイールブラケット
- B. ロックナット
- C. ゲージホイール
- D. ワッシャ
- E. ショルダボルト

輸送時の高さとの調整

輸送時の高さとの距離は、調節ができます。Jフック (A) の上にトラニオン (図 37 の C) を上げることで輸送時のデッキ位置を最大の地面との隙間を調節します。デッキを最も下げる際は Jフックにつながるトラニオンを下ろします。輸送時の高さを確保するにはトラニオンを引き上げてデッキを上げます。

1. ジャムナット (図 37 の B) を緩めます。
2. ヘアピン (F) とワッシャ (E) をトラニオン (C) から外します。
3. トラクタリフトアーム (D) からトラニオン (C)、Jフック (A)、ジャムナット (B) を外します。
4. トラニオン (C) を回して高さを調整します。
5. トラニオン (C)、Jフック (A)、ジャムナット (B) をトラクタリフトアーム (D) に入れます。ワッシャ (E)、ヘアピン (F) を取り付け、ジャムナット (B) を締めます。

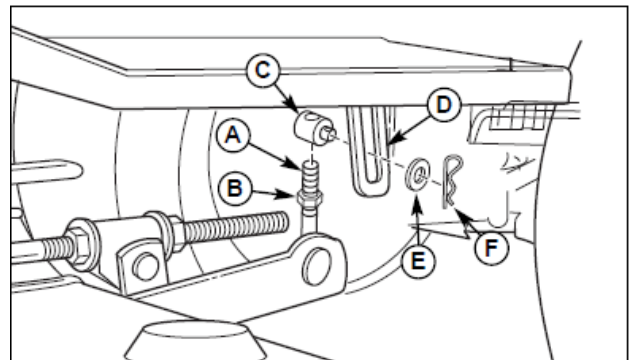


図 37 刈り高さ調整

- A. Jフック
- B. ジャムナット
- C. トラニオン
- D. トラクタリフトアーム
- E. ワッシャ
- F. ヘアピン

モアのレベル調整

不適当なタイヤ圧は、むらのある芝刈りとなる可能性があります。「タイヤ圧の点検」項で指定されたタイヤ圧が正しいことを確認してください。

サイド to サイドのレベル調整

1. モアを取り付けて、トラクタをコンクリートのようななめらかな、平らな表面に置いてください。前輪をまっすぐにしてください。
2. 必要に応じてブレードが曲がっていないかチェックして必要に応じて交換してください。
3. 中央の刈り取り位置にモアを置いてください。端から端への位置とするように、外側のモアブレードを調整してください。
4. 各々のブレードと地面を測り、3mm 以上あればステップ 5 まで進行してください。違いが 3mm 以下の場合、ステップ 6 まで進行してください。

偏心ナットのモデル

5. 図 38 を参照して、外側のナット(A)を緩めてください。モアの左側を上げ下げするために、偏心ナット(B)を回してください。モアが水平なとき、外側のナットを締めている際、偏心ナットを持ってください。

Jフックのモデル

5. 図 39 を参照し、Jフック(A)を固定し、ロックナット(B)を回してください。

モアの左側を上げ下げするために、ロックナット(B)を回してください。

注：44”と 50”モアでターボ集草装置付システムを使用するとき、ターボアッセンブリの重さ保つためにモアの排出側を 6mm もち上げます。刈られた草のレベルをチェックして、必要に応じてスムーズな、平らな刈り込みのための測定し 6mm 調節します。

フロントーバックのレベル調整

6. ブレードを前から後ろに向くように、調整してください。

7. センターブレードの先方の端と地面からの距離を計測し、地面から左側と右側の刃の後方の先端までの距離を計ってください。

左側と右側のブレードの後部の先端より高くセンターブレードの先方の端は、6mm です。

そうでない場合、ステップ 8-9 を続行してください。

8. モアデッキの正面を上げるために、前部のナット(B)をゆるめて、後部のナット(図 40 の A)を回してブラケットにもたれさせてください。モアデッキの下の正面に、後部のナット(A)を緩めてください。ブラケットはロッドを延ばすために後方に動きます。

9. ブレードを再度チェックしてください。固定するブラケットに対して前部ナット(B)を締めてください。

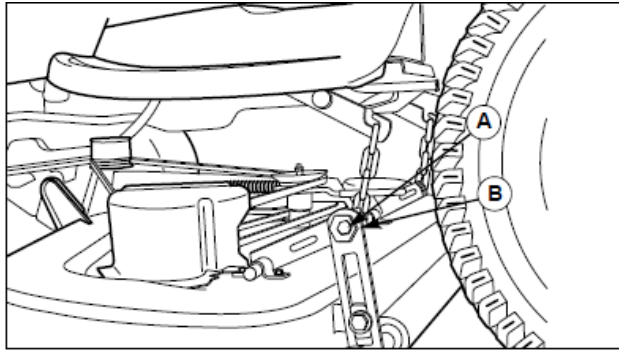


図 38 サイド to サイドモアのレベル調整

偏心ナットモデル

A. 外側ナット

B. 偏心ナット

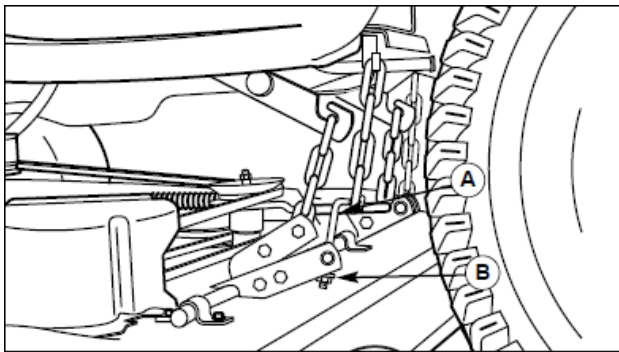


図 39 サード to サイドモアのレベル調整

Jフックモデル

A. Jフック

B. ロックナット

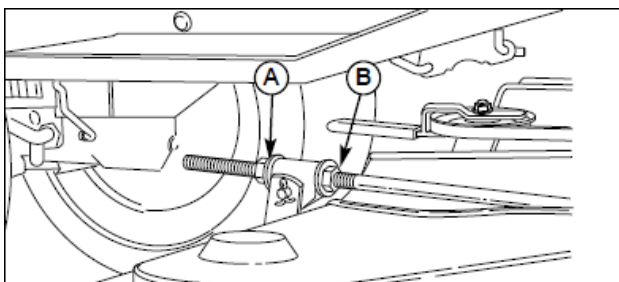


図 40 フロント to バックレベルの調整

A. 後方ナット

B. 前方ナット

8-10 モアベルトの交換



ベルトの損傷を防ぐためにプーリーからベルトをこじらないでください。

44”と50”のPTOベルトの交換

1. コンクリート面のようななめらかな、平らな場所でトラクタを駐車してください。PTOを外しエンジンを切って、駐車ブレーキをロックしてください。キーを引き抜いてください。最も低い刈り高さとしてモアを外してください。
2. ベルト張力を軽減するために、アイドル・アーム（図41のA）を動かしてください。PTO（電磁クラッチ）プーリーから、ベルトを外してください。

重要：外す前に、ベルトとプーリーなどすべてのベルトガイドの位置をおぼえておいてください。

3. アイドラプーリーベルトガイド（図41のC）を固定しているナットとロックワッシャを緩めてください。
4. 図42を参照して、左側の被いカバー（D）を固定している3つのキャップスクリュを取り外してください。
5. 古いベルトを取り外してください。新しい部品に交換してください。ベルトがプーリーの溝に収まることを確認してください。
6. 図41を参照して、アイドルプーリーベルトストップ(C)をプーリーとベルトストップの隙間を3mmとしてください。
7. 図42を参照して、左側の被いカバー（D）を取り付けてください。外されていたモアデッキを取り付けてください。
8. およそ5分間無負荷で、モアを動かしてください。

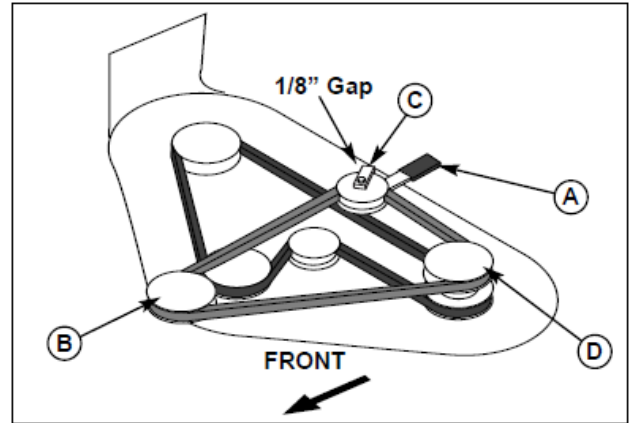


図 41 モアベルトの取り回し

- A. アイドラプーリーアーム
- B. PTO クラッチプーリー
- C. ベルトガイド(44”,50”)
- D. ドライブプーリーカバー

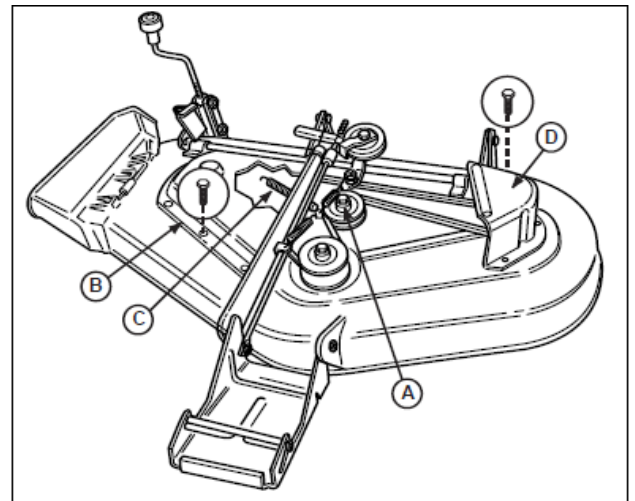


図 42 44”と50” モアデッキ

- A. キャップスクリュ
- B. 右側被いカバー
- C. スプリング
- D. 左側被いカバー

ドライブベルト被いの交換- 44” 50” モア

注意: 必ず *Simplicity* 純正部品を使用してください。

1. コンクリート面のようななめらかな、平らな場所でトラクタを駐車してください。PTOを外しエンジンを切って、駐車ブレーキをロックしてください。キーを引き抜いてください。
2. トラクタからモアデッキを外します。「モアの取り外し」項を参照してください。
3. 右側の被いカバー（図 43 の B）を固定しているキャップスクリュを外してください。左側の被いカバー（D）を固定している3つのキャップスクリュを外してください。
4. 一対のロックプライヤまたはスプリングプーラーを使って、デッキの-slotから、アイドルプーリースプリング（図 43 の C）を外してください。
5. アイドラプーリーをブラケットに固定しているキャップスクリュ（図 43 の A）を緩めてください。ベルトは、プーリーとアイドルプーラーハブの間にすべり込むことができます。
6. 図 44 で示すように新しいベルトを取付けてください。ベルトのV側がプーリー(A)溝に収まるようにしてベルトの平らな側がアイドルプーリー (B) に当たることを確認してください。
7. キャップスクリュ(図 43 の A)を締め付けてください。
8. スプリング(図 43 の C)をモアデッキの-slotに取り付けます。
9. 左右の被いカバー(図 43 の B,D)を取り付けます。
10. モアデッキをトラクタに装着します。

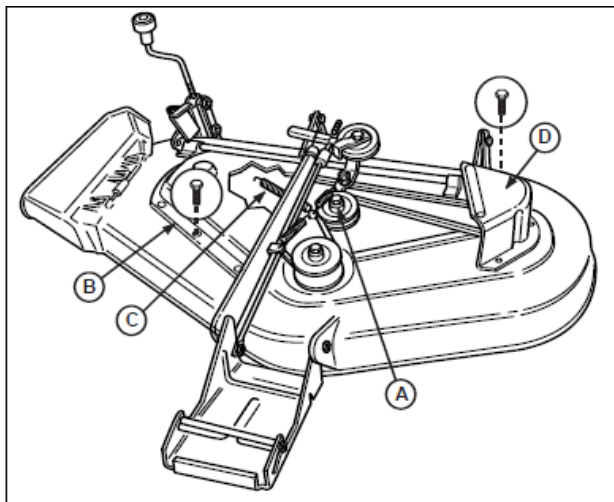


図 43 44”, 50” モアデッキ

- A. キャップスクリュ
- B. 右側覆いカバー
- C. スプリング
- D. 左側覆いカバー

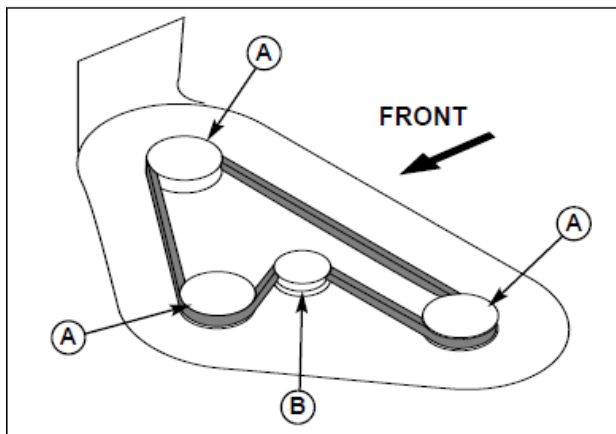


図 44 モアデッキのベルト取り回し-全モデル

- A. 被いドライブプーリー(V側)
- B. アイドラプーリー(平らな側)

40”モア PTO ベルトの交換

1. モアデッキを取り付けて、コンクリート面のようななめらかなで平らな表面で、トラクタを駐車してください。PTO をはずして、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、キーを引き抜いてください。
2. モアデッキ（「モアデッキ取り外し」を参照）を外してください。ベルトカバーを取り外してください。
3. 装置され手いる際にアイドルプーリーベルトガイド（図 45 の E,F）の位置に注意して記憶してください。アイドルプーリーのキャップスクリュを緩めて、アイドルプーリー（DとG）から、ベルトを取り外してください。
4. 図のように新しいベルト（B）を取り付けてください。モアデッキがトラクタに装着されるとき、PTO 周辺のベルトカバーはプーリー（A）、後部アイドルプーリー（D）、モアデッキドライブプーリー（C）とVアイドルプーリー（G）をしっかりと取り付けます。
5. 当初のベルトとプーリーの位置にアイドルプーリーベルトガイド（EとF）を戻して、アイドルプーリーキャップスクリュを締めてください。

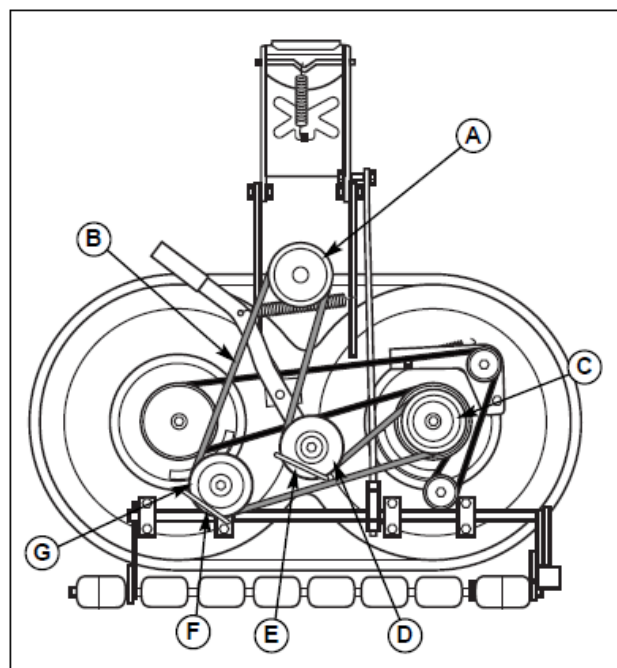


図 45 PTO ベルトの交換

- A. エンジン PTO クラッチプーリー
- B. PTO ベルト
- C. モアデッキドライブプーリー
- D. 後方アイドルプーリー
- E. ベルトガイド
- F. ベルトガイド
- G. V アイドラプーリー

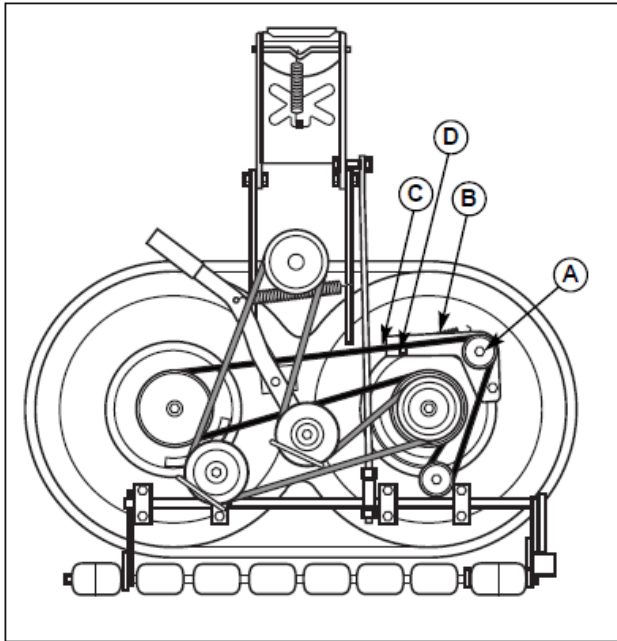


図 46 マルチングデッキ(ベルトカバー外した状態)

- A. アイドラ Assy キャップスクリュ
- B. プリング負荷付アイドラ Assy
- C. ベルト
- D. 角孔

40" モア カバードライブベルトの交換

1. モアデッキを取り付けて、コンクリート面のようななめらかで平らな面で、トラクタを駐車してください。PTOをはずして、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、キーを引き抜いてください。
2. モアデッキ（「モアデッキの取り外し」を参照）を取り外してください。ベルトカバーを取り外してください。
3. アイドラ Assy キャップスクリュ（図 46 の A）を緩めてください。
4. ラチェット（図 47 の A）を使って、エクステンションの端を角穴（図 46 の D）に挿入して、ベルト(C)の上で張力を軽減するために、よりアイドラ Assy（図 46 の B）を動かしてください。
5. ベルト(C)を外します。
6. 図のように新しいベルト(C)をプーリーに取り付けてください。アイドラ Assy(A)をスプリングの方向に緩めて自動的に歯付ベルトに張力をかけさせます。
7. アイドラ Assy キャップスクリュ(A)を締めてください。ベルトカバーを再取付してください。
8. ブレードが互い（図 48）に対して垂直であることを確認してください。異なっている場合、「通常のメンテナンス」にあるモアブレード タイミング手順を実行してください。

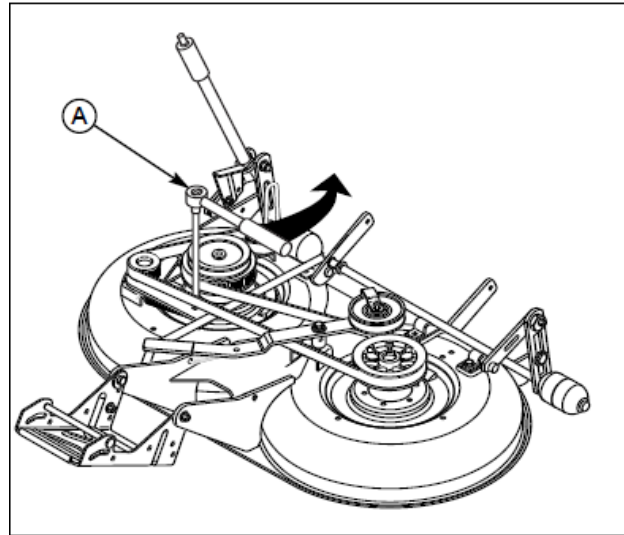


図 47 歯付ベルトテンションの緩め
A. 3/8"のラチェットとエクステンション

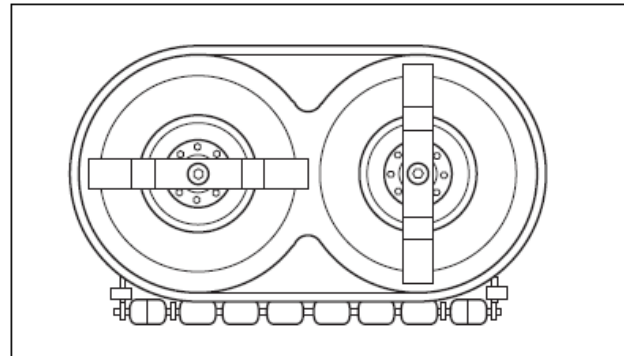


図 48 モアブレードのタイミング

38” モア ドライブベルトの交換

注意：必ず純正の Simplicity 部品だけを使うようにしてください。一般の交替部品番号のためにフードの下に貼付したデカールもしくはこのマニュアルの後ページをチェックしてください。

注意：新しいベルトを取り付けるためにモアを取り外す必要はありません。しかし、より簡単なアクセスのために、モアは取り外されることができます。「モアデッキの脱着」項を参照ください。

1. モアデッキを取り付けて、コンクリート面のようななめらかで平らな面で、トラクタを駐車してください。PTOをはずして、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、キーを引き抜いてください。
2. モアが取り外されないならば、モアリフトを降ろして、最も低い刈り高さにモアを置いてください。
3. ベルト張力を軽減するために、アイドルアーム(図 49 の A) を押してください。PTO (電磁クラッチ) プーリーから、ベルトを外してください。

重要：緩める前に、ベルトとプーリーのすべてのベルトガイドの位置に注意してください。

4. 2つのベルトストップブラケット(C)とアイドルプーリーベルトガイド(D)を緩めてください。
5. 古いベルトを取り外してください、そして、新しいベルトと入れ替えてください。ベルトのV-側が被いプーリー溝にはまり、平らな後部がアイドルプーリーに当たることを確認してください。
6. ベルトストップブラケット(C)を元の場所に入れます。ベルトストップとプーリー間のクリアランスは3mmです。
7. アイドラプーリーアーム(A)に対してアイドルプーリーベルトガイド(D)を当初の位置に置いてください。プーリーとベルトガイド間のギャップは3mmです。
8. 取り外れたモアデッキをトラクタに装着してください。「モアデッキの脱着」の項を参照。
9. 5分ほど無負荷で、モアを動かしてください。

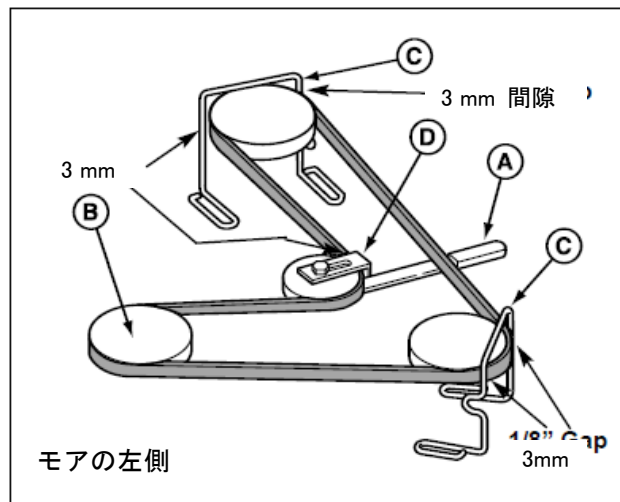


図 49 38”モアデッキ モアベルトの取り回し

- A. アイドラプーリーアーム
- B. PTO プーリー
- C. ベルトストップブラケット
- D. アイドラプーリーベルトガイド

9 仕様緒元

注意：仕様は印刷する際に正しく、予告なく変更されることがあります。

*個々のガソリンエンジンモデルの出力は SAE (Automotive Engineers) コード J1940 (Small Engine Power & Torque Rating Procedure) に従ってラベルを貼付しています。出力表示は SAE J1995 (改訂 2002-05) に基づいて表示しています。最大トルクは、3060RPM で引き出されま

す；
馬力は、3600RPM で引き出されます。実際のエンジン出力は、運転時の周囲の温度等の状況と個々のエンジンによって影響を受けます。エンジンが搭載される作業機の種類と作業機を駆動することに適用できる環境問題のバラエティがあれば、作業機の所定の場所で使われるとき、ガソリンエンジンは総合的な出力を高めません。これは、アクセサリ（エアクリーナ、マフラ、充電、冷却、キャブレタ、燃料ポンプ、その他）、アプリケーションとしての限度、周囲の動作状況（温度、湿気、高度）と個々のエンジンの種類等いろいろな要因によります。ブリッグス&ストラットン社は、より高い出力エンジンをこの Series に搭載することもあります。

エンジン

21HP Briggs & Stratton

メーカー	Briggs & Stratton
モデル	Vanguard
出力	21HP/3600 rpm
排気量	627 cc
電装	12V, 16A 充電装置 340 CCA バッテリ
オイル容量	1.4 リットル

18HP Briggs & Startton

メーカー	Briggs & Stratton
モデル	Vanguard
出力	18HP/3600 rpm
排気量	570 cc
電装	12V, 16A 充電装置 340 CCA バッテリ
オイル容量	1.4 リットル

車 体:

Broadmoor/300/1600/2600 シリーズ

燃料タンク容量	15 リットル
後輪タイヤサイズ	22 X 10.00 -10
タイヤ圧力	0.41~0.55 bar
前輪タイヤサイズ	15 X 6.00 -6
タイヤ圧力	0.8~1.0 bar

トランスミッション

K57

タイプ	Hydrostatic Tuff Torq K57
油圧オイル	10W30 プレミアムエンジンオイル
容量	2.0 リットル
スピード	前進: 8.9 Km/h @3400rpm 後進: 5.6 Km/h
定格トルク	216Nm
乾燥重量	200 Kg
アクスルの最大重量	306 Kg

寸法:

Broadmoor/300/1600/2600 シリーズ

全長	187 cm
全幅	107 cm
全高	109 cm(シートの上端)
重量	

Broadmoor/1600/2600 トラクタ
217 Kg

50" モアデッキ	57 Kg
44" モアデッキ	51 Kg
40" モアデッキ	55 Kg

サービスパーツ

交換部品は、お買い求めの販売店から入手可能です。必ず純正の Simplicity サービスパーツを使用してください。

メンテナンスに必要な機材

多くの便利で役に立つサービスとメンテナンスに必要な機材はお買い求めの販売店で出来ます。これらのアイテムのいくつかは、以下を含みます：

エンジンオイル

タッチアップペイント

グリスガンキット

グリスチューブ

タイヤシーラント

燃料劣化防止剤

テクニカルマニュアル

部品表と同様に、このマニュアルがご入用であれば販売店で入手可能です。これらのマニュアルは、使われる部品番号と量と同様に分解図（部品の関係を示す 3D 具体例）に、製品の構成要素の全てを示します。



SNAPPER®



ブリッグス・アンド・ストラットン・ジャパン株式会社

〒523-0817 滋賀県近江八幡市浅小井町 591
TEL : 0748-34-0200 FAX : 0748-33-3818

SNP-BSJ04/2009.07